

CHUNICHI PREVENTIVE MEDICINE CENTER

中日新聞社健康保険組合
中日病院健診センター

2025

令和7年度
年 報

中日病院健診センター年報

1. 挨拶
2. 年表
3. 健診センター組織図
4. 年間スケジュール
5. 施設内観(写真)
6. 結果報告 受診者統計
7. 健診売上 健診種別件数 実施検査件数
8. 健康経営への取り組みについて
9. 経営戦略・今後の展望
10. 協賛

ご挨拶

平素より格別のご支援とご高配を賜り、誠にありがとうございます。本年度も新型コロナウイルス感染症が5類となって2年が経ち一時の勢いをひそめ、皆様のご支援のもと、中日病院健診センターも着実に成長を遂げることができました。心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当センターは昭和37年に短期人間ドックを開始して以来、63年が経過しました。皆様の温かいご支援が、当センターの挑戦と確信を支える原動力となっております。これからも社会に貢献し続ける健診センターとして、皆様とともに歩んでまいります。

今回2024年度の年報を作成しましたので、皆様にも是非お手にとってご覧になっていただきたいと思い、お配りいたします。統計データ等はフォローアップまで含めておりますので2023年度のデータになります。これからも毎年ブラッシュアップしながら、皆様のお役に立つようなより良いものを作成していきますので、よろしくお願い申し上げます。

2023年度には、4月に人間ドック期間限定キャンペーンを行い、6月にはマイクロRNAを検査する次世代がん検診「マイシグナル」をオプション検査として導入しました。7月には毎年実施している大相撲名古屋場所の新弟子検査を行い、同月12日は日本人間ドック学会が制定した「人間ドックの日」イベントを開催。9月にはイオンモールノリタケガーデンにて医療従事者による健康応援フェスタ「COLORFUL 彩」に参加。11月には世界糖尿病デーのイベント「アドボカシー～偏見にNO!」を開催。同月21日から24日にかけてグループ会社である中日ドラゴンズ選手の健診を実施。翌年1月からは高齢者の方を対象としたシルバードックの受付を開始し、レディースデイも3日間開催しました。

まだ初回の試みで手作り感あふれる年報になったことをお詫びいたします。今後とも皆様のご期待に沿えるよう、誠心誠意努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

中日新聞社健康保険組合 中日病院健診センター長 野村史郎

年表

	中日病院	日本総合健診医学会・他	日本人間ドック学会	世界・日本の主な出来事
1937年 (昭和12年)		東京帝国大学坂口康蔵内科教授のもとに、代議士俵孫一、桜内幸雄2名が健康管理目的に1週間の入院をして全身の精密検査わが国最初の「人間ドック」となる		・ヘレン・ケラー来日 ・ドイツの飛行船ヒンデンプルクがアメリカ上空で爆発 ・後樂園球場が開場 ・「別れのブルース」
1954年 (昭和29年)		国立東京第一病院(現・国立国際医療研究センター病院)で1週間入院「人間ドック」開始		・マリリン・モンロー来日 ・ベビービームで小学校の新入生が100万人増加 ・ニッポン放送開局 ・名古屋テレビ塔完成 ・七人の侍
1956年 (昭和31年)	3月 中部日本新聞社直営病院として中日病院が発足			・メルボルン五輪 ・中部日本放送テレビ開局 ・アロハシャツ流行 ・慎太郎刈り
1958年 (昭和33年)	3月 本館南館増築 4月 中部日本新聞社直営から中部日本新聞社健康保険組合直営に移管	聖路加国際病院にて短期人間ドック(1泊2日)開始		・国民健康保険法公布 ・第1回日劇ウエスタンカーニバル開幕 ・東京タワー完成 ・「嵐を呼ぶ男」
1959年 (昭和34年)		大阪府立成人病センター創設。感染症予防から成人病予防の時代の幕開けに	4月 日本病院協会と健保連の正式契約→「短期人間ドック」発足 7月 聖路加国際病院にて病院関係者17名が集まり、試験的に発表会を行い、8月に短期人間ドック医療担当者講習会を行った。これがのちの人間ドック学会に発展する母体となる	・皇太子(今上天皇)御成婚 ・NHK教育テレビ開局 ・日本教育テレビ(現テレビ朝日)開局 ・フジテレビ開局 ・ザ・ピーナッツデビュー ・バービー人形流行
1962年 (昭和37年)	4月 短期人間ドック開始	日赤 愛の献血運動始める	健保との提携による主婦ドックを試験的に開始	・富士ゼロックス「電子複写機完成」 ・三河島事故 ・マリリン・モンロー死亡 ・ビートルズデビュー
1968年 (昭和43年)	8月 人間ドック専用室の設置(2床) 	医師法改正、インターン制度廃止される	ドック開始10年を記念して、全国46病院の協力により、人間ドック反復実施者の経年変化の成績が集約され、加齢と異常所見の頻度、とくに肥満との関係が明確にされた 12月 参加組合数771組合、実施病院205施、受診者も年間25,967名、10年間の総計143,072名に達した	・郵便番号制度実施 ・小笠原諸島返還 ・メキシコ五輪 ・ポケットベル登場 ・「恋の季節」 ・巨人の星

	中日病院	日本総合健診医学会・他	日本人間ドック学会	世界・日本の主な出来事
1969年 (昭和44年)			短期人間ドック開始より、10年めを記念し、「人間ドック学会」と改称 慶應大学病院の1週間人間ドックの廃止により、1日通院ドックへと変化していく	・アポロ11号月面着陸 ・大学紛争 東大安田講堂陥落 ・アニメ「サザエさん」放送開始 ・「黒猫のタンゴ」 ・「ブルーライト・ヨコハマ」 ・「恋の奴隷」
1970年 (昭和45年)	 新弟子検査を受ける高見山		5月に第1号自動化健診開設。東芝総合健診センターにて消化管X線検査を加えたわが国はじめての自動化健診を行った	・よど号ハイジャック ・大阪万博 ・ビートルズ解散 ・あしたのジョー
1971年 (昭和46年)		5月 愛知県総合保健センターで自動化健診開始 12月 福岡総合健診センター、ほか全国に自動化健診システム開設相次ぐ	人間ドック指定病院が242施設に達する	・日清食品カップヌードル新発売 ・NHK総合テレビ全カラー化 ・ボーリングブーム ・「また逢う日まで」
1974年 (昭和49年)	3月 名古屋市から北隣健診用地を取得		自動化健診実施施設と健保連との契約開始(日本病院会の会員施設であること等)	・佐藤栄作ノーベル平和賞 ・長嶋茂雄引退 ・ハローキティ誕生 ・ベルサイユのバラ ・宇宙戦艦ヤマト
1975年 (昭和50年)	4月 半日ドック開始	1月 日本自動化健診学会へ改称	4月 大幅な検査項目の追加が行われ短期人間ドック実施指針が出された	・ベトナム戦争終結 ・まんが日本昔ばなし ・ザ・ピーナッツ引退 ・「木綿のハンカチーフ」
1979年 (昭和54年)	1月 日本病院協会の人間ドック施設に指定 4月 政府管掌健康保険成人病予防健診施設に指定			・「ズームイン!!朝」放送開始 ・サッチャー英首相誕生(女性初) ・TV3年B組金八先生
1980年 (昭和55年)	7月 北隣接地に第2次増築工事着工(翌年11月に増築完成)	 中日ドラゴンズ健診 老人保健法成立	2月 短期人間ドック実施病院指定に関する内規が制定される	・校内暴力・いじめ・登校拒否が社会問題化 ・山口百恵・三浦友和結婚 ・ゲームウォッチ発売 ・竹の子族出現 ・ルービックキューブ
1982年 (昭和57年)	3月 中日病院健診センターを置く 人間ドック専用室を増設(2→6床) 人間ドックを1日20人体制へ 栄養指導を開始 パノラマX線撮影装置導入		9月 第23回人間ドック学会にて学会会則改正	・東北・上越新幹線開業 ・「笑っていいとも！」放送開始 ・ホテルニュージャパン火災惨事 ・「待つわ」 ・「赤いスイートピー」

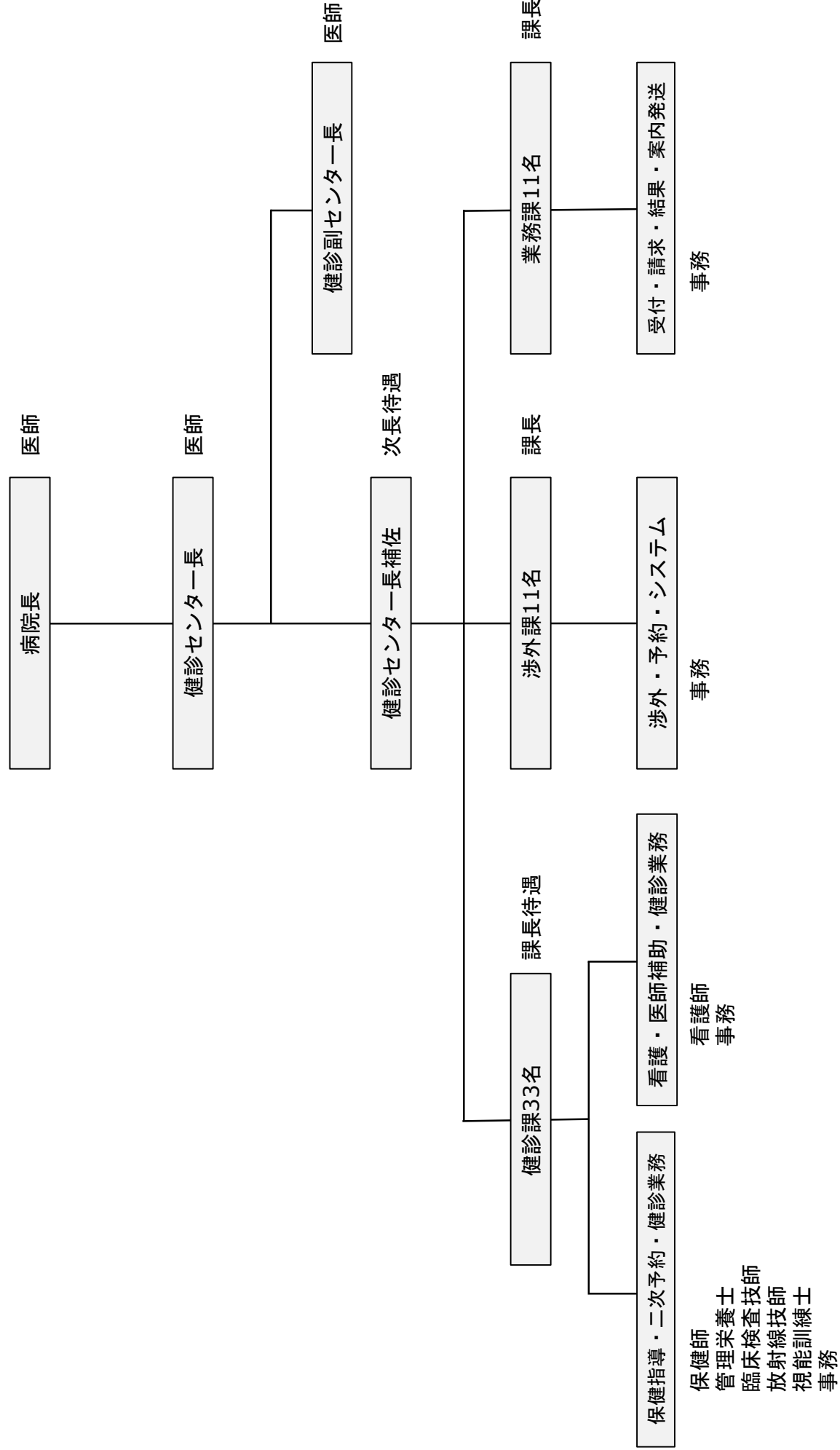
	中日病院	日本総合健診医学会・他	日本人間ドック学会	世界・日本の主な出来事
1983年 (昭和58年)			第24回学会より「日本人間ドック学会」と改称	・東京ディズニーランド開業 ・ファミコン発売 ・三宅島大噴火 ・「おしん」ヒット
1984年 (昭和59年)	4月 健康保険組合連合会愛知支部の人間ドックに指定される企業向けに保健指導を開始			・ロス五輪 ・日本 世界一の長寿国へ ・「桃色吐息」 ・「2億4千万の瞳」
1985年 (昭和60年)	4月 人間ドックを1日33人体制へ	1月 日本総合健診医学会へ改称	8月 宿題報告「長寿と人間ドック活動」の中で人間ドック全国集計成績を発表	・日航ジャンボ機御巣鷹山墜落 ・スーパーマリオブラザーズ発売 ・「恋におちて」
1986年 (昭和61年)	8月 健診用地、一部診療用地(431.93㎡)を取得 9月 人間ドックを1日54人体制へ	老人保健法改正、老人保健施設を制度化	「優良指定施設」の壁掛け方表示板を作成し有料にて頒布	・男女雇用機会均等法施行 ・三原山大噴火 ・おニャン子ブーム
1988年 (昭和63年)	5月 エレベーター設置のため本館東隣設置(130㎡)を取得 8月 総合健診システム稼働 人間ドック 1日60人体制へ	政府「第二次国民健康づくり対策」を公表		・ソウル五輪 ・瀬戸大橋開通 ・リクルート事件 ・東京ドーム落成 ・村上春樹「ノルウェイの森」
1992年 (平成4年)	2月 東館(健診センター)増築竣工 3月 労働者健康保持増進サービス機関として労働省より認定 乳房X線撮影装置導入 人間ドック専用室を増室(6→11床)			・バルセロナ五輪 ・山形新幹線「つばさ」開業 ・育児休業法施行 ・「君がいるだけで」 ・クレヨンしんちゃん
1996年 (平成8年)			4月 臨床予防医学委員会は、短期人間ドックを一泊人間ドック、自動化健診を一日人間ドックと呼称することに決定した	・アトランタ五輪 ・使い捨てカメラ「写ルンです」発売 ・「ガッツだぜ」
1999年 (平成11年)	 増築工事で鉄入れ式を行う中日新聞社社長		従来の施設認定に加え、医師の人間ドック健診の質的向上を図る目的で、「人間ドック認定指定医制度」発足 第40回学会にて、第1回認定式(認定証交付:465名)	・品質表示基準制度 ・欧州通貨統合で「ユーロ」誕生 ・「だんご3兄弟」
2000年 (平成12年)	6月 MRI(磁気共鳴画像撮影装置)を導入	政府「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」を公表し、推進	人間ドック判定基準(生化学11項目と血算8項目)の統一 4段階の判定区分を公表	・シドニー五輪 ・BSデジタル放送開始 ・都営大江戸線全線開通 ・ユニクロ

	中日病院	日本総合健診医学会・他	日本人間ドック学会	世界・日本の主な出来事
2001年 (平成13年)	4月 日本病院会自動化健診施設として認定			・サッカーくじ「toto」発売 ・米国同時多発テロ ・千と千尋の神隠し ・ハリーポッター
2002年 (平成14年)	4月 日本総合健診医学会優良総合健診施設として認定		日本人間ドック学会のホームページを開設	・欧州通貨(ユーロ)統一 ・小柴昌俊、田中耕一ノーベル賞 ・「大きな古時計」
2004年 (平成16年)		政府「医療制度改革大綱」を公表 生活習慣病の予防の徹底を図るため医療保険者に健診・保健指導を義務付ける	人間ドック健診施設機能評価制度発足	・アテネ五輪 ・新潟県中越地震 ・冬のソナタ ・電車男 ・世界の中心で、愛を叫ぶ
2005年 (平成17年)	10月 人間ドック健診機能評価認定施設認定	日本総合健診医学会法人化取得 人間ドック健診専門医制度(旧制度)発足	厚生労働省医政局指導課に日本人間ドック学会独立を報告し承認	・個人情報保護法施行 ・つくばエクスプレス開業 ・ノロウイルス ・小泉チルドレン
2006年 (平成18年)	11月 旧中日新聞社本社跡地に新病院を建設、移転	厚生労働省:「標準的な健診・保健指導プログラム」を公表	特定健診・特定保健指導説明会を開催	・トリノ冬季五輪 ・日本郵政株式会社発足 ・ダ・ヴィンチ・コード ・ハンカチ王子
2008年 (平成20年)	4月 健康評価施設査定機構の定める認定基準を達成していることを認定 		特定健診・特定保健指導委託集合契約を健保連等と契約する(集合契約A) 人間ドック健診食生活改善指導士(人間ドック食生活アドバイザー認定) 12月 有限責任中法人法が廃止され、学術団体である非営利性の高い一般社団法人日本人間ドック学会として登記	・北京五輪 ・ガソリン暫定税率期限切れ ・中国四川大地震 ・新宿コマ劇場、52年の歴史に幕 ・崖の上のポニョ ・相棒 ・taspo(タスポ)
2009年 (平成21年)	4月 人間ドック専門医制度過渡的措置に基づく研修施設として指定	日本総合健診医学会と日本人間ドック学会と合同で人間ドック専門医制度(新制度)の運営を開始	特定健診・特定保健指導委託集合契約を協会けんぽと健保連等と契約(集合契約A) 9月 内閣府公益認定等委員会より、一般社団法人から公益社団法人日本人間ドック学会として認定される	・オバマ氏、第44代米大統領に就任 ・太宰 治 生誕100年 ・裁判員制度スタート ・新型インフルエンザ流行 ・おくりびと ・村上春樹「IQ84」
2010年 (平成22年)	4月 人間ドック健診機能評価認定施設更新			・バンクーバー冬季五輪 ・小惑星探査機「はやぶさ」帰還

	中日病院	日本総合健診医学会・他	日本人間ドック学会	世界・日本の主な出来事
2011年 (平成23年)	4月 日本脳ドック学会施設認定			・東日本大震災発生 ・サッカー女子ワールドカップで日本女子代表が優勝
2014年 (平成26年)	4月 日本総合健診医学会優良総合健診施設更新			・ソチ冬季五輪 ・消費税率8%に引き上げ ・御嶽山噴火
2015年 (平成27年)	4月 人間ドック健診機能評価認定施設更新			・安全保障関連法が可決、成立 ・北陸新幹線(長野・金沢間)が開通 ・箱根駅伝で青山学院大学が初優勝
2016年 (平成28年)	4月 日本脳ドック学会施設更新	新型コロナウイルス ワクチン接種予約について *対象者* クーポンをお持ちの方 名古屋市外の方はご予約が取りできない場合があります *予約方法* <u>ホームページからのWeb予約</u> または 052-211-7844 上記番号へお電話ください **予約受付時間** Web予約:24時間 電話予約:平日9時～12時 ※お電話の際、診療券をお持ちの方は お手元にご用意ください ※電話がつながりにくくなりますのでご了承ください 2021年8月2日 中日病院		・リオ五輪 ・熊本地震 ・小池百合子氏が初の女性都知事に就任 ・「ポケモンGO」大ブーム
2017年 (平成29年)	4月 日本総合健診医学会優良総合健診施設更新			・桐生祥秀 陸上100mで日本人初の9秒台を記録 ・Nintendo Switch発売
2020年 (令和2年)	4月 新型コロナウイルス緊急事態宣言により健診を4月13日～6月21日まで休止 6月 感染症対策及び人数制限をしながら健診を再開 6月 定期健康診断の午後受付を開始			・新型コロナウイルス感染拡大 ・九州豪雨 ・レジ袋有料化 ・将棋 藤井聡太が最年少でタイトルを獲得 ・劇場版「鬼滅の刃」無限列車編
2021年 (令和3年)	1月 生活習慣病健診の午後受付を開始 9月 日本脳ドック学会の指針により脳ドックにCADI2(軽度認知障害検査)を追加 9月 日帰り大腸カメラ検査の運用を開始	診断能力向上 早期発見も 肺がんによる死にはまだまだ増加しており、たばこ対策などの予防が重要である。とに変わりはありませんが、低線量コンピュータ断層撮影(CT)肺がん検診により、肺がんによる死を減少させる可能性が示されるようになってきました。 CT検診では、胸部単純エックス線検診と比較して肺がん発見率は十倍ほど高く、早期肺がんの発見率も高く、その治療成績も良好であることが報告されています。米国と欧州で複数のランダム化比較試験が行われ、重症患者での肺がん死亡率減少効果が示されました。 当院でも、このたび、より診断能力が高く安心して受けることができるCT装置を導入しました。被ばく線量は通常の胸部CTでは八割程度ですが、導入した検査装置では二割程度です。 低線量CT肺がん検診 低線量CT肺がん検診は、五十歳以上の喫煙者の方あるいは以前に喫煙されていた方、近親者に肺がんになった方がいる方、定期的な検診を希望される方にお勧めします。また肺がん以外の呼吸器の病気(肺炎、肺気腫、気管支拡張症、抗酸菌感染症など)や心臓や血管の動脈硬化などが発見されることもありますのでぜひご検討ください。 (健診センター所長・野村史郎)		・新型コロナウイルスワクチン接種開始 ・東京五輪 1年遅れ無観客で開催 ・大谷翔平がメジャーMVPに ・大相撲 横綱白鵬が引退
2022年 (令和4年)	5月 低線量CT撮影装置を導入	 低線量撮影ができるCT		・北京五輪 ・安倍元首相銃撃され死亡 ・知床観光船沈没事故 ・成人年齢が18歳に引き下げ

中日病院健診センター組織図

2025年9月 1 日現在



年間スケジュール

月	日	2023年度	日	2026年度
4月	1日	オプション検査 MCI検査導入	1日	創立記念イベント
	1日～30日	 人間ドック期間限定キャンペーン	1日～30日	 人間ドック期間限定キャンペーン
	1日～	2023年度 名古屋市がん検診受診開始	1日～	2026年度 名古屋市がん検診受診開始
5月			未定	 世界高血圧デイ イベント内容:医師講演,血圧測定
6月	1日	オプション検査 マイクロRNAで調べる次世代がん検診「マイシグナル」導入		
	中旬～	名古屋市特定健康診査受診開始	中旬～	名古屋市特定健康診査受診開始
7月		 日本相撲協会:名古屋場所 新弟子検査		 日本相撲協会:名古屋場所 新弟子検査
	12日	 人間ドックの日 健康保険組合等へ夏のご挨拶開始	13日	 7/12 人間ドックの日 健康保険組合等へ夏のご挨拶開始
8月	12日～15日	お盆期間中も営業 健康保険組合等へ夏のご挨拶終了	12日～15日	お盆期間中も営業 健康保険組合等へ夏のご挨拶終了
			未定	 レディースデイ
9月	23日・24日	イオンモール ノリタケガーデンにて 医療従事者による健康応援フェスタ「COLORFUL彩」に参加 イベント内容:中日病院ブースでは「ベジチェック」を実施 400名程の方に参加していただきました	4日・5日	熊本城ホール 第67回 日本人間ドック・予防医療学会学術大会 参加予定
10月	23日	マイシグナルの単独予約を開始 新オプション検査採用検討開始 次年度予約枠作成	未定	スポーツの日(12日) 新オプション検査採用検討開始 次年度予約枠作成
11月	15日	 世界糖尿病デイ アドボカシー ～偏見にNO!～ イベント内容:医師講演, HbA1c測定	未定	 世界糖尿病デイ
		 プロ野球:ドラゴンズ健診 年末ご挨拶開始		 プロ野球:ドラゴンズ健診(3日間) 年末ご挨拶開始
12月		名古屋テレビの取材を受けました ドデスカ「ドデ+リサーチ」で取り上げられました	未定	 レディースデイ
		 プロ野球:ドラゴンズ健診(新入団選手) 年末ご挨拶終了		 プロ野球:ドラゴンズ健診(新入団選手) 年末ご挨拶終了
1月	5日～	 シルバードック 受付開始	4日～	 シルバードック 受付開始予定
		 プロ野球:ドラゴンズ健診(新外国人)		 プロ野球:ドラゴンズ健診(新外国人)
	15日	 レディースデイ 協賛:日本メナード化粧品株式会社様	未定	 レディースデイ
			29日・30日	第55回 日本総合健診医学会学術大会 参加予定
2月		2024年度 予約開始	1日～	2027年度 予約開始
	5日	 レディースデイ 協賛:日本メナード化粧品株式会社様	未定	 レディースデイ
3月	4日	 レディースデイ 協賛:日本メナード化粧品株式会社様	未定	 レディースデイ
	31日	シルバードック 受付終了	31日	シルバードック 受付終了 人間ドック期間限定キャンペーン終了



院内イベント
ドラゴンズ健診



期間限定キャンペーン
新弟子検査

※保健指導のフォローアップデータの集計が2023年度のため、年間スケジュールも2023年度を掲載します。

健診センター入口



受付フロア



検査フロア



検査フロア



診察室



レディースコーナー



2日ドック受診者休憩室



臨床検査科

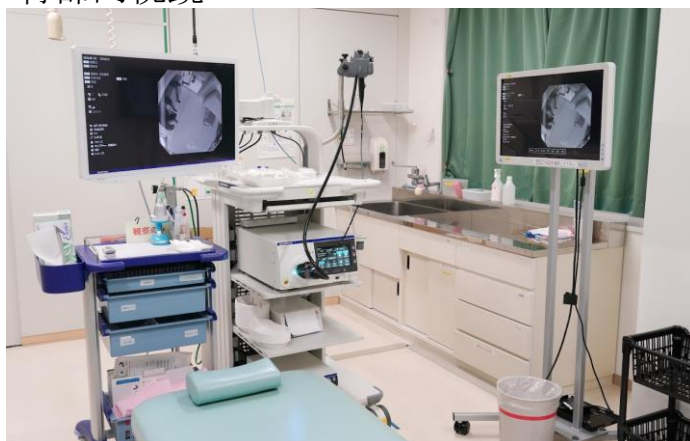


検査機器

胃部レントゲン



胃部内視鏡



腹部超音波



眼底・眼圧



CT



MRI



マンモグラフィ



婦人科



イベント

レディースデイ(2025年12月11日 実施)



名古屋テレビ ドデスカ「ドデ+リサーチ」マイシグナル検査についての取材(2023年12月8日)



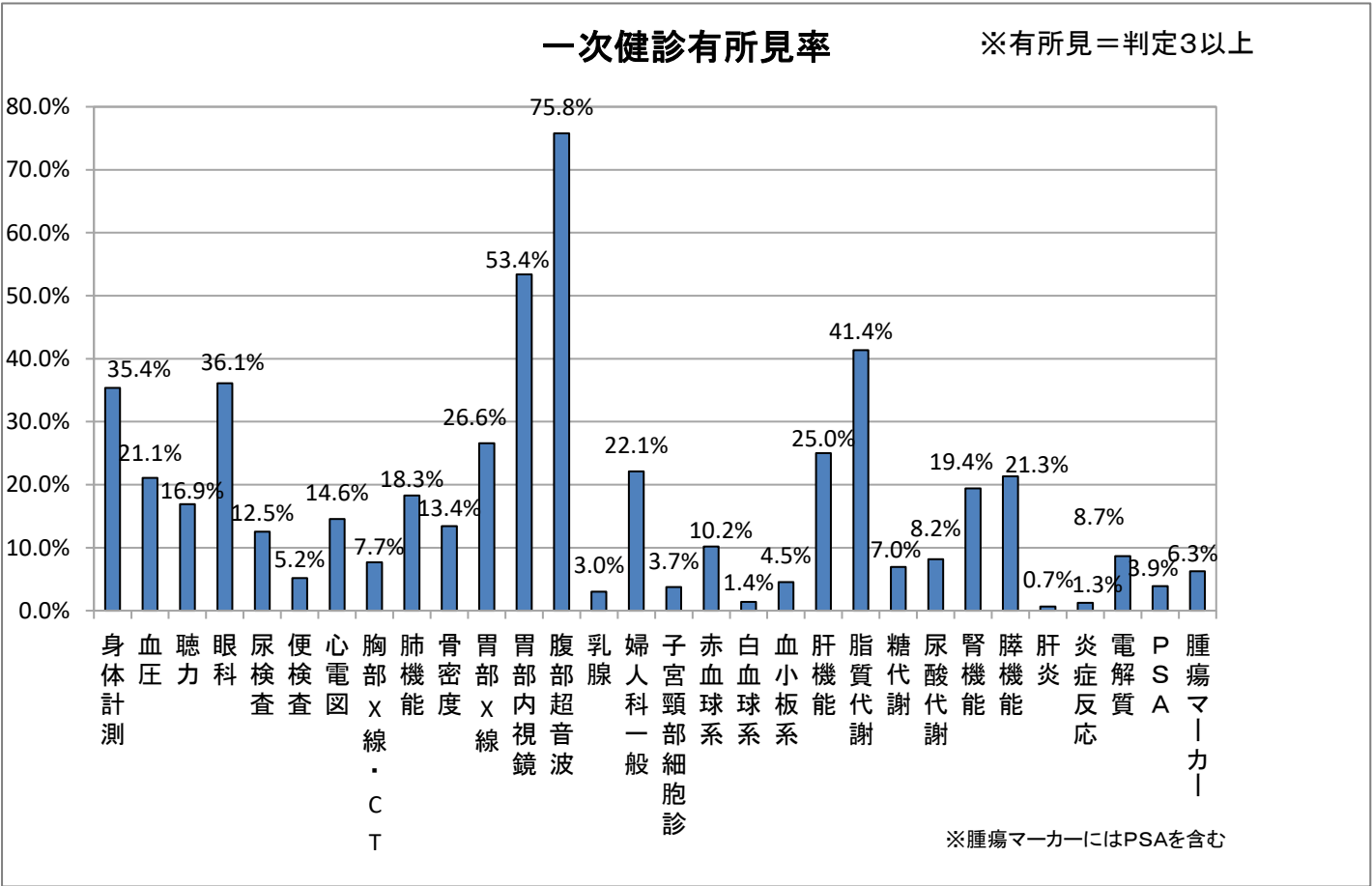
名古屋テレビアナウンサー堂野 浩久様と野村センター長

中日ドラゴンズ 2024年新入団選手健康診断(2023年12月18日)



一次健診結果(判定)
一次健診判定別結果

項目	受診者 総数	判定1		判定2		判定3		判定4		判定5		判定6	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
身体計測	37830	24442	64.6%			13388	35.4%						
血圧	37836	26935	71.2%	2924	7.7%	2213	5.8%			647	1.7%	5117	13.5%
聴力	36317	30171	83.1%			6144	16.9%			2	0.01%		
眼科	16537	8888	53.7%	1677	10.1%	3044	18.4%			1400	8.5%	1528	9.2%
尿検査	37818	26505	70.1%	6570	17.4%	2471	6.5%			2272	6.0%		
便検査	27460	26041	94.8%					1419	5.2%				
心電図	36493	27329	74.9%	3847	10.5%	2889	7.9%	1584	4.3%	835	2.3%	9	0.02%
胸部X線・CT	36267	28760	79.3%	4721	13.0%	1921	5.3%	692	1.9%	173	0.5%	0	0.0%
肺機能	14512	11856	81.7%			1351	9.3%			1305	9.0%		
骨密度	4345	3762	86.6%							486	11.2%	97	2.2%
胃部X線	16843	12065	71.6%	297	1.8%	3559	21.1%	917	5.4%	5	0.03%		
胃部内視鏡	6680	789	11.8%	2325	34.8%	3179	47.6%	281	4.2%	102	1.5%	4	0.06%
腹部超音波	16176	2613	16.2%	1303	8.1%	11203	69.3%	189	1.2%	868	5.4%		
乳腺	7507	5237	69.8%	2043	27.2%	68	0.9%	158	2.1%	0	0%	1	0.01%
婦人科一般	6702	5220	77.9%	0	0%	1143	17.1%			339	5.1%	0	0.0%
子宮頸部細胞診	6697	6446	96.3%			56	0.8%			195	2.9%		
赤血球系	36603	30740	84.0%	2128	5.8%	2607	7.1%			959	2.6%	169	0.5%
白血球系	29484	27620	93.7%	526	1.8%	453	1.5%			885	3.0%		
血小板系	18507	17063	92.2%	1187	6.4%	42	0.2%			215	1.2%		
肝機能	37831	23255	61.5%	5120	13.5%	5002	13.2%			4454	11.8%	0	0.0%
脂質代謝	37831	13450	35.6%	8727	23.1%	9259	24.5%			3562	9.4%	2833	7.5%
糖代謝	37837	17506	46.3%	12254	32.4%	4904	13.0%			1303	3.4%	1870	4.9%
尿酸代謝	30025	24527	81.7%	3047	10.1%	1135	3.8%			327	1.1%	989	3.3%
腎機能	30156	20641	68.4%	3654	12.1%	5220	17.3%			553	1.8%	88	0.3%
脾機能	7239	6735	93.0%			401	5.5%			103	1.4%		
肝炎	12169	11855	97.4%	234	1.9%					80	0.7%		
炎症反応	11096	10416	93.9%	541	4.9%	0	0%			139	1.3%		
電解質	2826	2574	91.1%	7	0.2%	115	4.1%			130	4.6%		
PSA	6944	6673	96.1%							271	3.9%		
腫瘍マーカー(PSA含む)	8944	8384	93.7%							560	6.3%		
総合判定	38404	1541	4.0%	2920	7.6%	15644	40.7%	2397	6.2%	15645	40.7%	257	0.7%

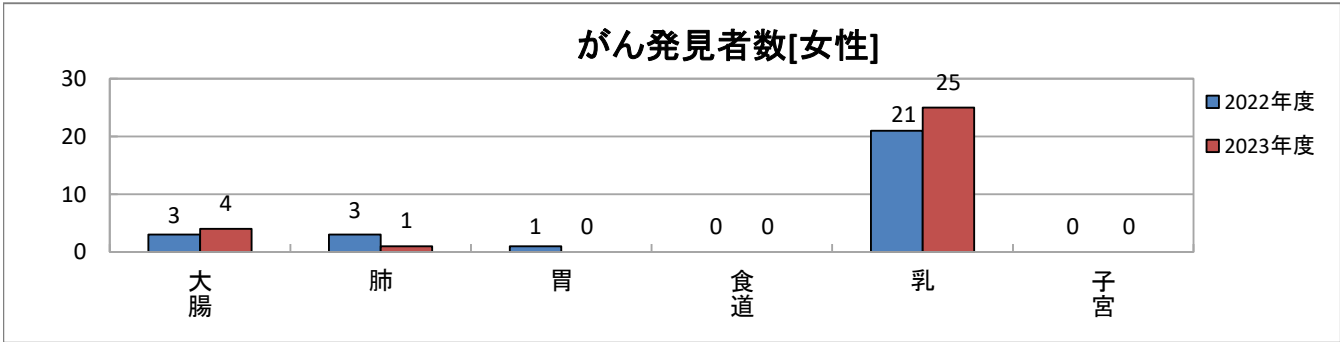
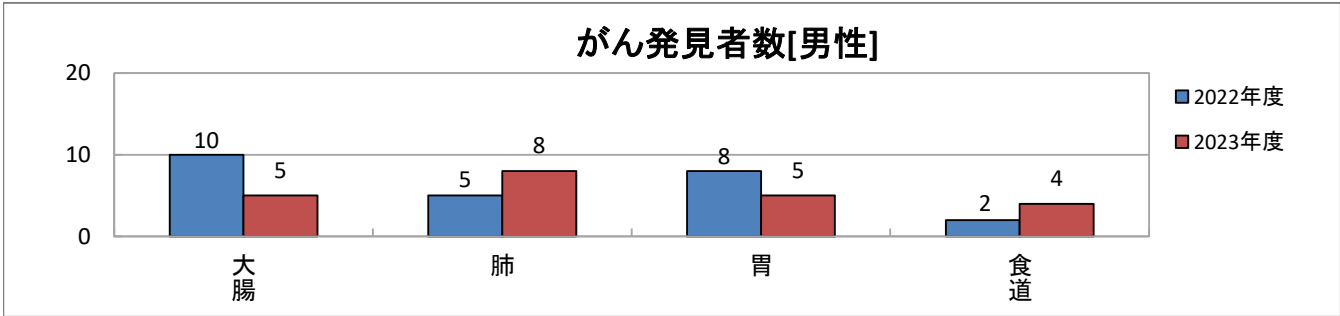


がん発見者数
男女別がん発見者数

2025年3月31日現在

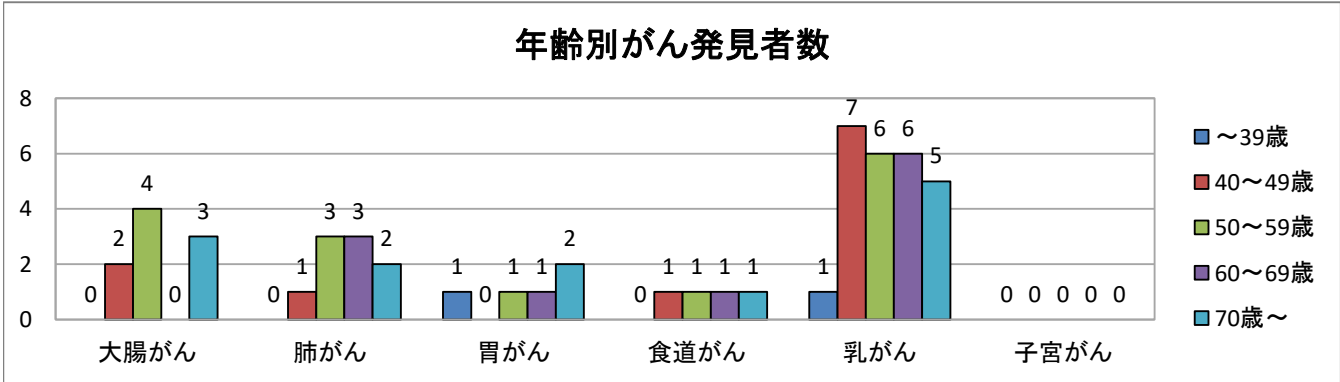
* 疑いは除く。()内はがん発見数のうち一次健診での発見者数

		大腸がん	肺がん	胃がん	食道がん	乳がん	子宮がん (体がん含む)	合計
男性	2022年度	10	5	8(8)	2(1)			25
	2023年度	5	8	5(4)	4(4)			22
女性	2022年度	3	3	1(0)	0	21	0	28
	2023年度	4	1	0	0	25	0	30
合計	2023年度	9	9	5	4	25	0	52



年齢別がん発見者数

	大腸がん	肺がん	胃がん	食道がん	乳がん	子宮がん	合計
～39歳	0	0	1	0	1	0	2
40～49歳	2	1	0	1	7	0	11
50～59歳	4	3	1	1	6	0	15
60～69歳	0	3	1	1	6	0	11
70歳～	3	2	2	1	5	0	13



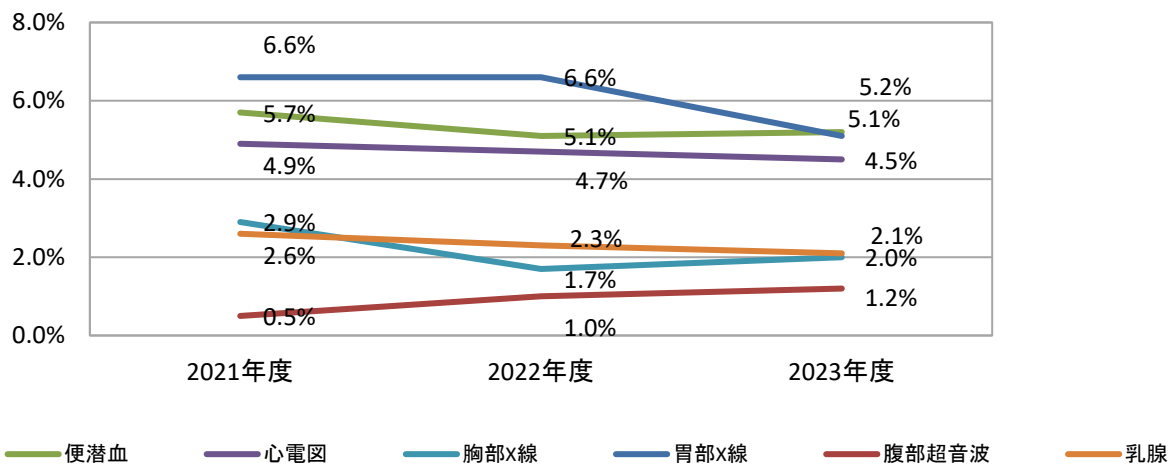
2023年度がん発見者数は乳がんが25名と多く、大腸がん9名、肺がん9名であった。また、一次健診の胃部内視鏡でのがん発見者数は、胃がん発見者数の5名中の4名、食道がんでは4名のすべてであった。年齢別がん発見者数をみると、30歳代でがんが発見されたのは2名で胃がんが1名、乳がんが1名であった。40歳代のがん発見者数は11名で60歳代のがん発見者数11名と同数であった。乳がんの発見者数は40歳代が7名と50歳代、60歳代の6名を超えて最多であった。

二次検査結果 二次検査受診率

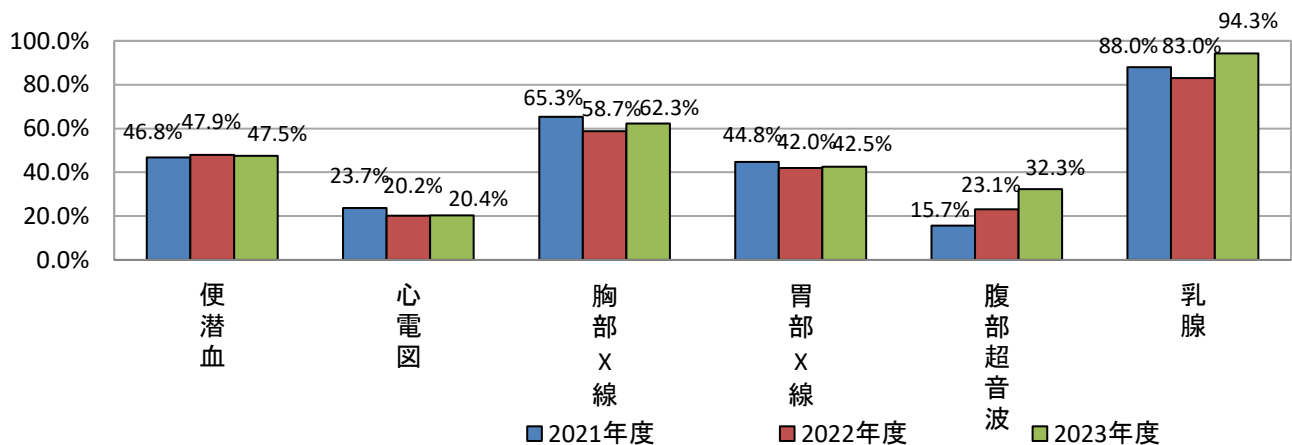
※がん発見数について、ここでは二次検査で発見された人数を報告している

一次検査項目	二次検査指示者数(人)	二次検査指示率	二次検査受診者数(人)	二次検査受診率	がん発見数	がん発見率	陽性反応的中度	前年度比受診者数(人)	前年度比受診率
便潜血	1419	5.2%	674	47.5%	9	0.033%	0.634%	11	-0.4%
心電図	1584	4.3%	323	20.4%				-13	0.2%
胸部X線	710	2.0%	442	62.3%	9	0.025%	1.268%	82	3.6%
胃部X線	917	5.4%	390	42.5%	1	0.006%	0.109%	-104	0.5%
腹部超音波	189	1.2%	61	32.3%	0	0.000%	0.000%	25	9.2%
乳腺	158	2.1%	149	94.3%	25	0.333%	15.823%	7	11.3%

二次検査指示率



二次検査受診率



二次検査受診者数については、2023年度は2039名で2022年度の2031名に比べて8名増加した。当院での二次検査受診者数は1385名(2022年度1349名)、他院の二次検査受診者数は654名(2022年度682名)で他院での二次検査受診者数が減少した。

一次検査項目別でみると、腹部超音波検査では当院の二次検査受診者数が52名(2022年度29名)と増加し、胸部X線の当院の二次検査受診者数も321名(2022年度231名)と増加した。

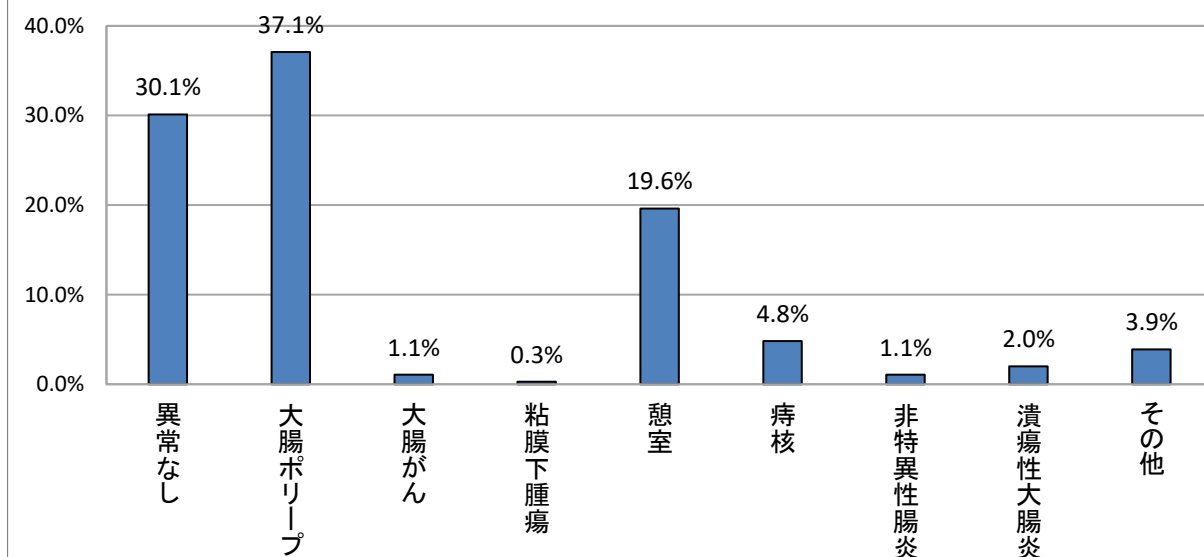
二次検査受診率については、腹部超音波の二次検査受診率が32.3%(2022年度23.1%)、乳腺の二次検査受診率が94.3%(2022年度83.0%)と上昇した。二次検査の受診率が減少したのは便潜血のみで0.4%の減少であった。胃部X線の二次検査受診者数は104名減少したが、胃部X線の二次検査指示率が5.1%(2022年度6.6%)に減少したため、二次検査受診率は0.5%上昇した。

便潜血二次検査結果(所見内容と所見数)

※疑いを含む

所見	当院	他院	合計	割合(%)
異常なし	158	66	224	30.1%
大腸ポリープ	187	89	276	37.1%
大腸がん	5	3	8	1.1%
粘膜下腫瘍	2	0	2	0.3%
憩室	127	19	146	19.6%
痔核	12	24	36	4.8%
非特異性腸炎	5	3	8	1.1%
潰瘍性大腸炎	8	7	15	2.0%
その他	17	12	29	3.9%

便潜血二次検査結果 所見割合



便潜血二次検査の所見割合は、大腸ポリープ、憩室、痔核の順で多くなっており、例年通りの結果である。大腸がんは9名発見されている。

二次検査全体の受診率は47.5%に対して、健診当日に便潜血の受診勧奨を行った受診者の二次検査の受診率は64.4%であった。

心電図二次検査結果(所見内容と所見数)

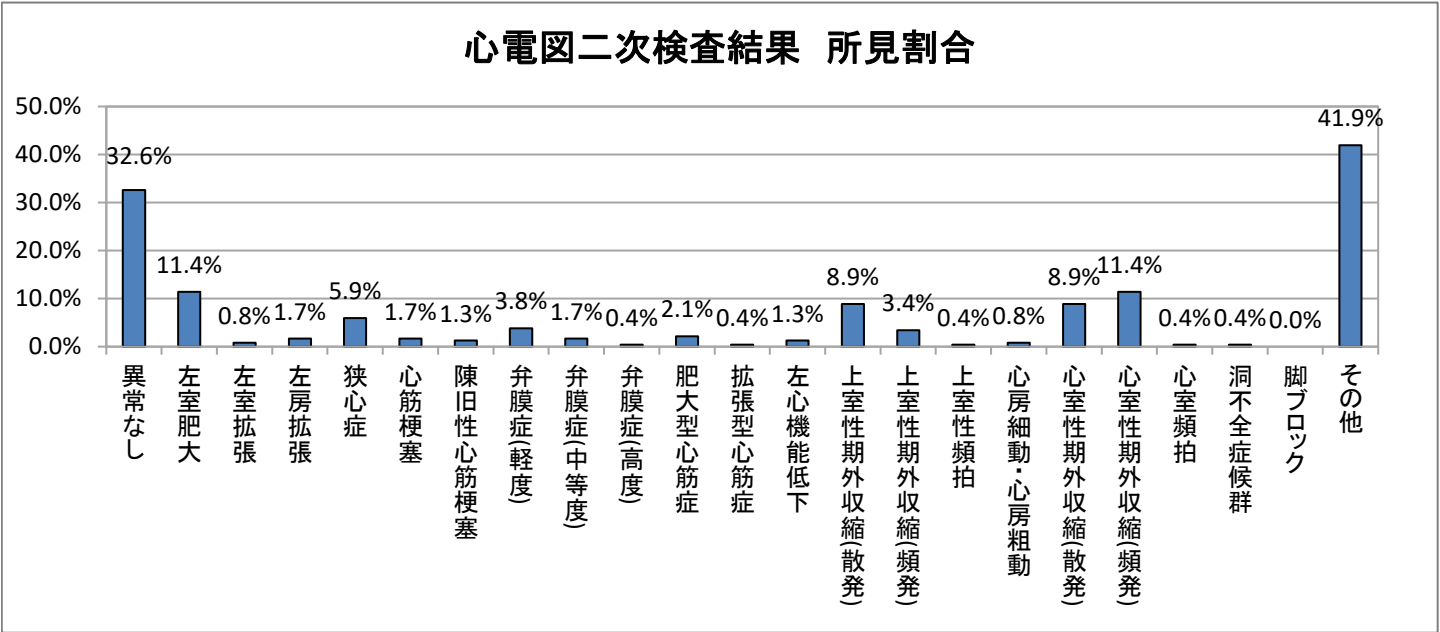
※疑いを含む

所見	当院	他院	合計	割合(%)
異常なし	48	29	77	32.6%
左室肥大	10	17	27	11.4%
左室拡張	0	2	2	0.8%
左房拡張	2	2	4	1.7%
狭心症	6	8	14	5.9%
心筋梗塞	0	4	4	1.7%
陳旧性心筋梗塞	0	3	3	1.3%
弁膜症(軽度)	5	4	9	3.8%
弁膜症(中等度)	1	3	4	1.7%
弁膜症(高度)	1	0	1	0.4%
肥大型心筋症	3	2	5	2.1%
拡張型心筋症	0	1	1	0.4%
左心機能低下	1	2	3	1.3%
上室性期外収縮(散発)	9	12	21	8.9%
上室性期外収縮(頻発)	7	1	8	3.4%
上室性頻拍	1	0	1	0.4%
心房細動・心房粗動	1	1	2	0.8%
心室性期外収縮(散発)	11	10	21	8.9%
心室性期外収縮(頻発)	20	7	27	11.4%
心室頻拍	1	0	1	0.4%
洞不全症候群	0	1	1	0.4%
脚ブロック	0	0	0	0.0%
その他	61	38	99	41.9%

[検査方法]

	件数	割合
心電図	30	8.2%
心臓超音波	140	38.0%
ホルター心電図	80	21.7%
負荷心電図	70	19.0%
心臓CT	3	0.8%
その他	45	12.2%

心電図二次検査結果 所見割合

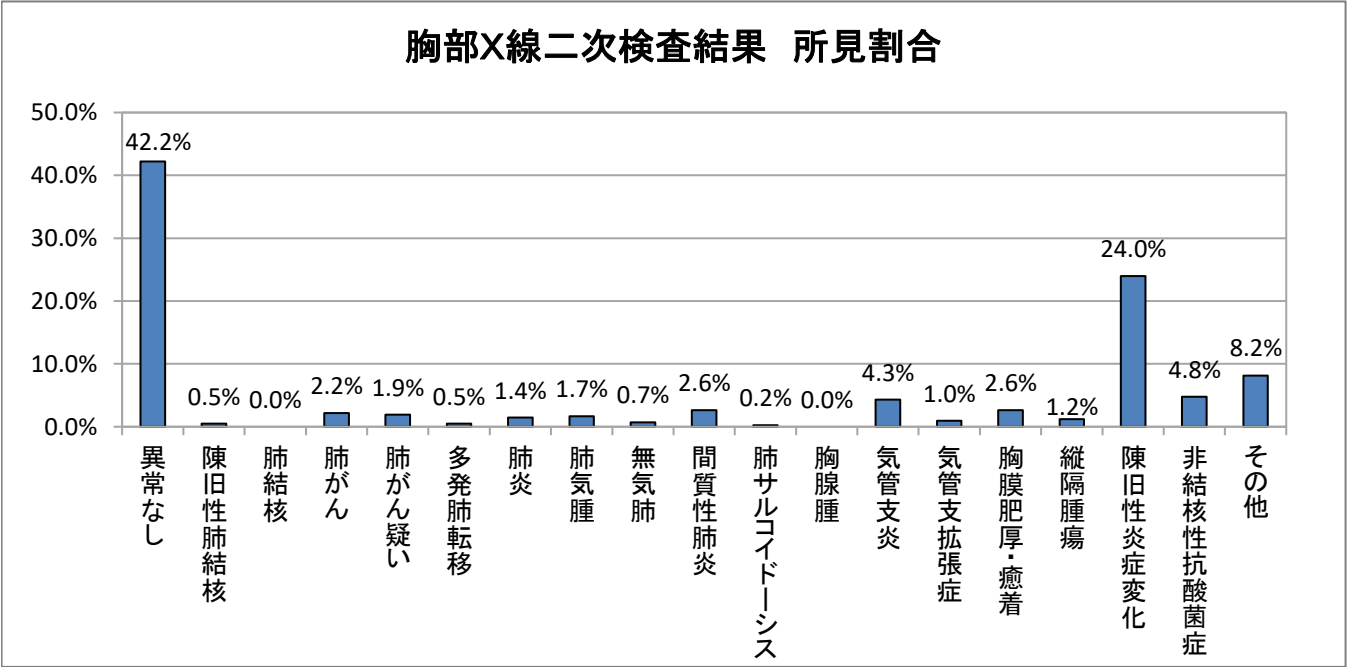


心電図二次検査結果の所見割合をみると、異常なしが32.6% (2022年度28.8%) で一番多かった。その他の所見ではブルガダ症候群が16名で最も多く、例年と同様であった。高血圧の所見が9名、ST低下や2束ブロックなどの心電図異常が所見として把握できた。精密検査方法は例年と同様に心臓超音波検査が最も多く、ホルター心電図、心電図検査と併せて実施されていることが多かった。

胸部X線二次検査結果(所見内容と所見数)

※疑いを含む

所見	当院	他院	合計	割合(%)
異常なし	139	37	176	42.2%
陳旧性肺結核	1	1	2	0.5%
肺結核	0	0	0	0.0%
肺がん	7	2	9	2.2%
肺がん疑い	8	0	8	1.9%
多発肺転移	0	2	2	0.5%
肺炎	4	2	6	1.4%
肺気腫	4	3	7	1.7%
無気肺	2	1	3	0.7%
間質性肺炎	7	4	11	2.6%
肺サルコイドーシス	1	0	1	0.2%
胸腺腫	0	0	0	0.0%
気管支炎	12	6	18	4.3%
気管支拡張症	2	2	4	1.0%
胸膜肥厚・癒着	6	5	11	2.6%
縦隔腫瘍	4	1	5	1.2%
陳旧性炎症変化	82	18	100	24.0%
非結核性抗酸菌症	16	4	20	4.8%
その他	19	15	34	8.2%

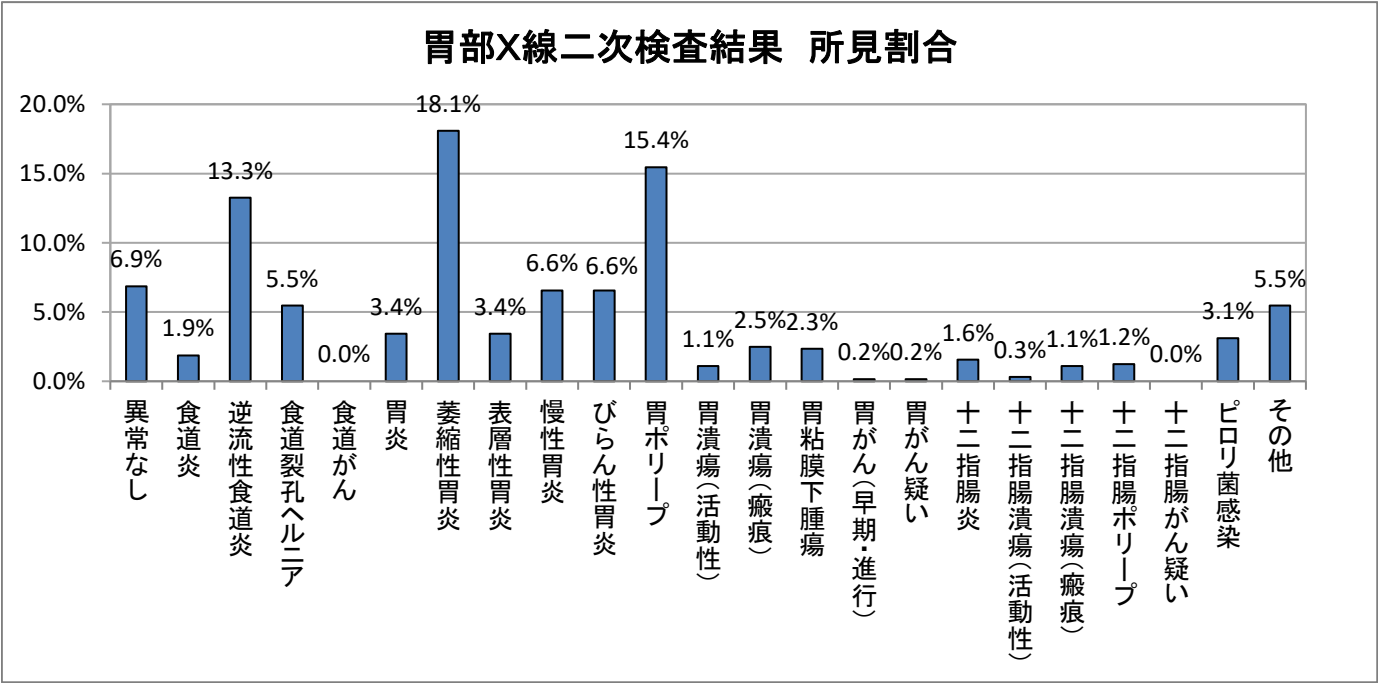


胸部二次検査の結果、肺がん発見者数は9名となった。所見割合は異常なしが42.2% (2022年度37.2%) で最も多かった。ついで陳旧性炎症変化が24.0%であった。その他所見では、肺繊維症、良性肺結節がみられた。

胃部X線二次検査結果(所見内容と所見数)

※疑いを含む				
所見	当院	他院	合計	割合(%)
異常なし	21	23	44	6.9%
食道炎	5	7	12	1.9%
逆流性食道炎	67	18	85	13.3%
食道裂孔ヘルニア	34	1	35	5.5%
食道がん	0	0	0	0.0%
胃炎	6	16	22	3.4%
萎縮性胃炎	93	23	116	18.1%
表層性胃炎	16	6	22	3.4%
慢性胃炎	14	28	42	6.6%
びらん性胃炎	34	8	42	6.6%
胃ポリープ	68	31	99	15.4%
胃潰瘍(活動性)	6	1	7	1.1%
胃潰瘍(癒痕)	9	7	16	2.5%
胃粘膜下腫瘍	11	4	15	2.3%
胃がん(早期・進行)	1	0	1	0.2%
胃がん疑い	1	0	1	0.2%
十二指腸炎	8	2	10	1.6%
十二指腸潰瘍(活動性)	2	0	2	0.3%
十二指腸潰瘍(癒痕)	4	3	7	1.1%
十二指腸ポリープ	6	2	8	1.2%
十二指腸がん疑い	0	0	0	0.0%
ピロリ菌感染	6	14	20	3.1%
その他	23	12	35	5.5%

※胃がんについて、二次検査で見つかった人数のみを報告している

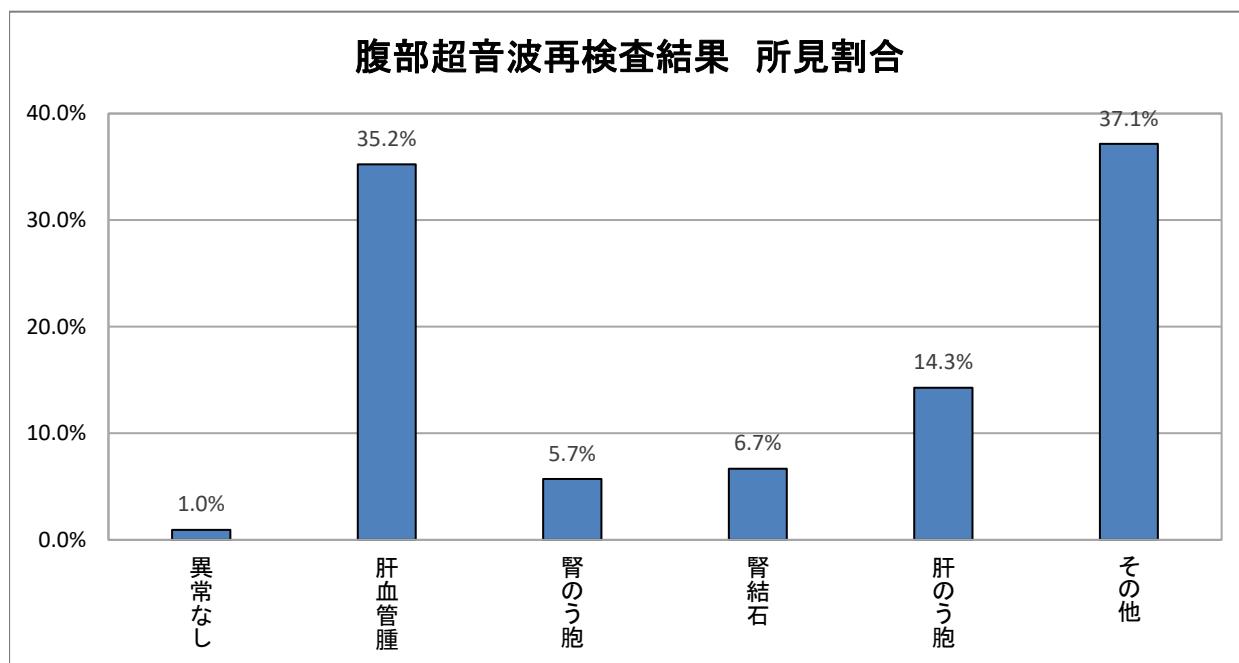


胃部X線二次検査の所見割合をみると、2022度と同様に萎縮性胃炎、胃ポリープ、逆流性食道炎の順に高くなっている。その他所見はバレット食道、食道ポリープの所見が多かった。食道静脈瘤の所見も把握されている。二次検査から胃がんは1名発見された。

腹部超音波再検査結果(所見内容と所見数)

※疑いを含む

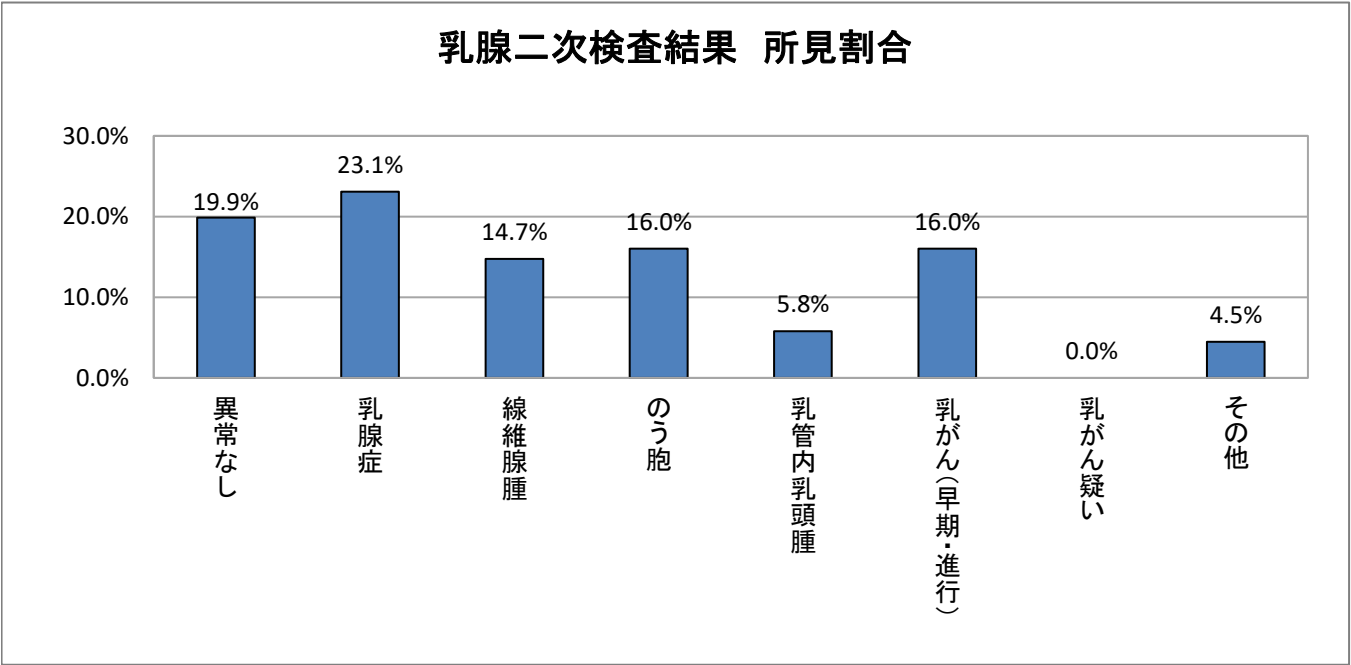
所見	当院	他院	合計	割合(%)
異常なし	1	0	1	1.0%
肝血管腫	34	3	37	35.2%
腎のう胞	6	0	6	5.7%
腎結石	7	0	7	6.7%
肝のう胞	13	2	15	14.3%
その他	33	6	39	37.1%



腹部超音波の6か月後再検査について、腹部超音波再検査結果が確認できた61名のうち37名に肝血管腫の所見がみられた。その他の所見としては胆のうポリープ、血管筋脂肪腫、胆石が多かった。

乳腺二次検査結果(所見内容と所見数)

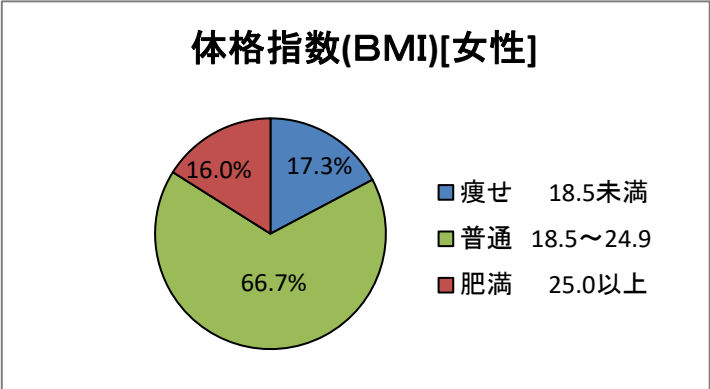
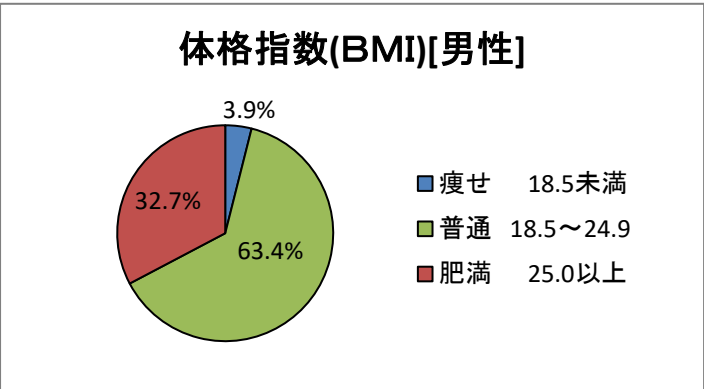
※疑いを含む				
所見	当院	他院	合計	割合(%)
異常なし	26	5	31	19.9%
乳腺症	27	9	36	23.1%
線維腺腫	14	9	23	14.7%
のう胞	15	10	25	16.0%
乳管内乳頭腫	6	3	9	5.8%
乳がん(早期・進行)	20	5	25	16.0%
乳がん疑い	0	0	0	0.0%
その他	2	5	7	4.5%



乳腺二次検査の結果、乳がん発見者数は25名であった。所見割合をみると、乳腺症23.1%(2022年度20.0%)、異常なし19.9%(2022年度28.0%)、のう胞16.0%(2022年度16.0%)、線維腺腫14.7%(2022年度19.3%)、の順で所見が多くなっている。乳頭内乳管腫は9名で2022年度の1名から8名増加した。その他所見は、石灰化、良性病変であった。

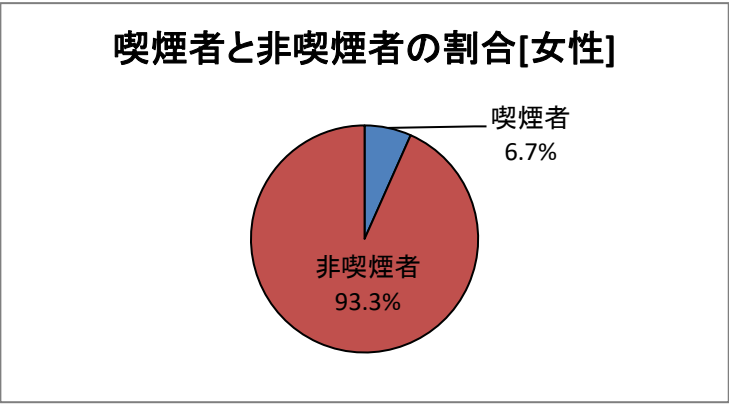
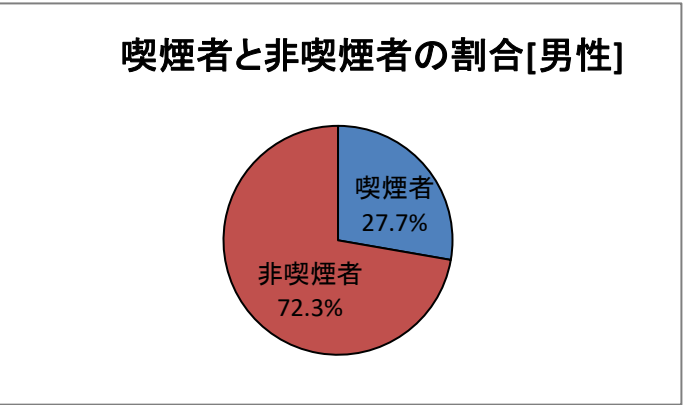
一次健診結果(その他)
体格指数(BMI)

	男性		女性		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
痩せ 18.5未満	928	3.9%	2458	17.3%	3386	9.0%
普通 18.5～24.9	14943	63.4%	9499	66.7%	24442	64.6%
肥満 25.0以上	7717	32.7%	2285	16.0%	10002	26.4%



喫煙者と非喫煙者の割合

	喫煙者数	割合	非喫煙者数	割合
男性	5392	27.7%	14046	72.3%
女性	728	6.7%	10207	93.3%
合計	6120	20.1%	24253	79.8%

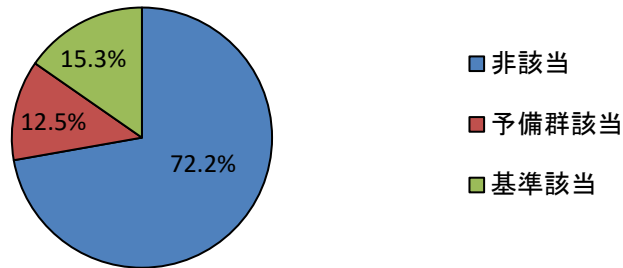


体格指数の結果は、男性・女性ともに「痩せ」「普通」「肥満」の割合に大きな変化はなかった。喫煙率は男性27.7% (2022年度28.6%)、女性6.7% (2022年度7.0%)という結果で、男女ともに喫煙率は若干減少した。

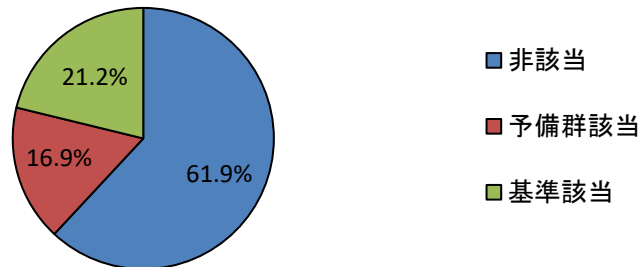
メタボリックシンドローム判定

		～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	75歳～	合計
男性	非該当	2321	3379	3535	2145	504	170	12054
	予備群該当	431	878	1144	663	169	0	3285
	基準該当	182	710	1557	1267	344	65	4125
女性	非該当	1764	2874	3110	1623	413	168	9952
	予備群該当	54	99	199	128	29	0	509
	基準該当	16	88	192	170	62	17	545
合計		4768	8028	9737	5996	1521	420	30470

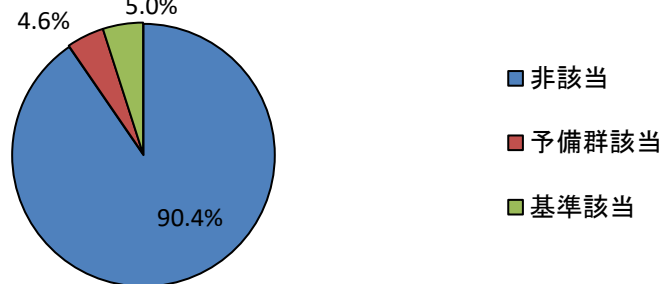
メタボリックシンドローム割合[総合]



メタボリックシンドローム割合[男性]



メタボリックシンドローム割合[女性]



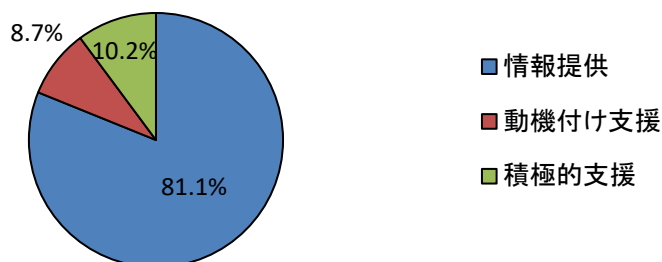
メタボリックシンドロームの階層化に関して例年と大きく変化はみられない。非該当の割合は2023年度の男性は61.9%（2022年度61.5%）、女性は90.4%（2022年度90.4%）で、男性が0.4%増加し、女性は同率であった。基準該当の割合は2023年度の男性は21.2%（2022年度21.2%）、女性は5.0%（2022年度4.7%）で男性は同率、女性は0.3%増加した。

特定保健指導 特定保健指導階層化

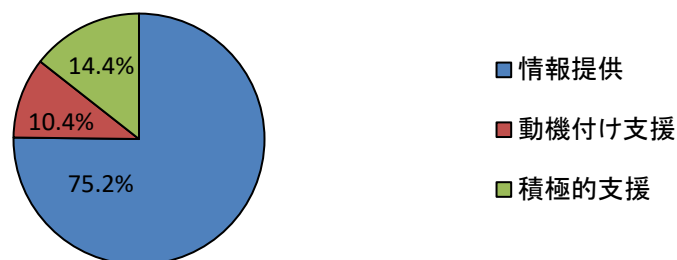
		～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	75歳～	合計
男性	情報提供	2217	3505	4587	3340	855	170	14674
	動機付け支援	311	521	563	450	166	0	2011
	積極的支援	436	964	1101	289	0	0	2790
女性	情報提供	1730	2811	3197	1787	472	162	10159
	動機付け支援	78	173	202	102	32	0	587
	積極的支援	30	82	104	34	0	0	250
合計		4802	8056	9754	6002	1525	332	30471

40～74歳	男性		女性		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
情報提供	12287	75.2%	8267	91.9%	20554	81.1%
動機付け支援	1700	10.4%	509	5.7%	2209	8.7%
積極的支援	2354	14.4%	220	2.4%	2574	10.2%
合計	16341	100.0%	8996	100.0%	25337	100.0%

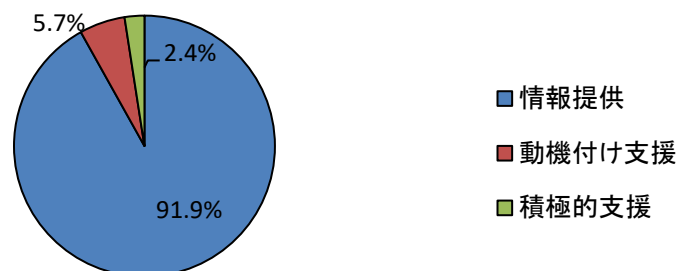
特定保健指導階層化[総合]



特定保健指導階層化[男性]



特定保健指導階層化[女性]



※特定保健指導階層化の円グラフについては、特定健診の対象者である40～74歳の受診者を対象としている

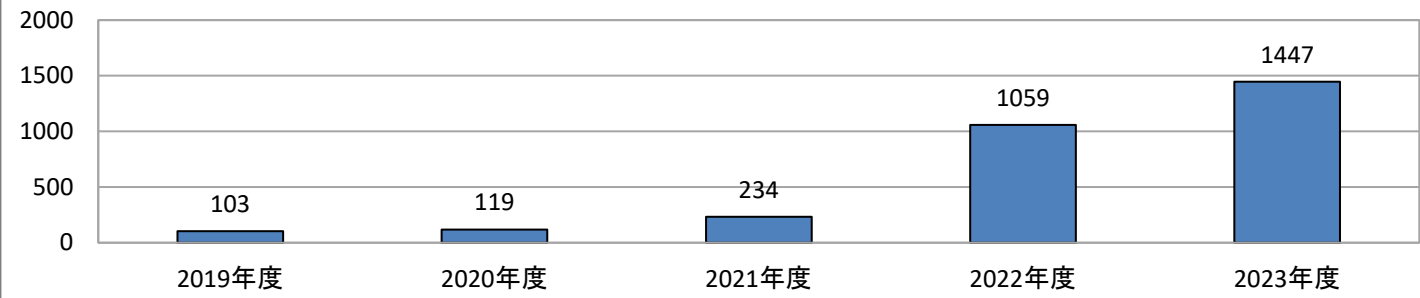
特定保健指導階層化に関して、男性は24.8%(2022年度26.3%)が積極的支援もしくは動機付け支援に該当し、女性は8.1%(2022年度8.2%)が積極的支援もしくは動機付け支援に該当した。

男性は2022年度に比べ情報提供該当者が73.7%から75.2%に増加し、積極的支援該当者・動機付け支援該当者ともに減少した。女性は2022年度に比べ情報提供該当者は91.8%から91.9%と、ほとんど変わりがなかった。

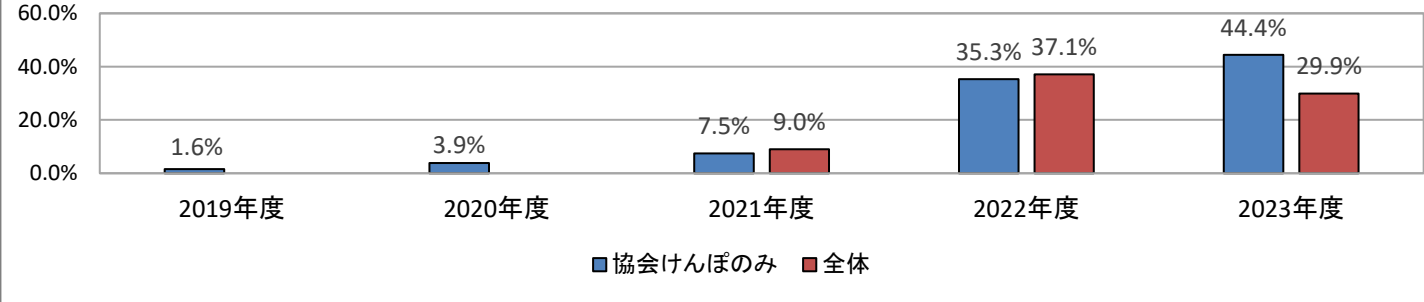
特定保健指導実施者数推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
動機付け支援	64	74	150	544	804
積極的支援	39	45	84	515	643
合計	103	119	234	1059	1447

特定保健指導実施者数推移



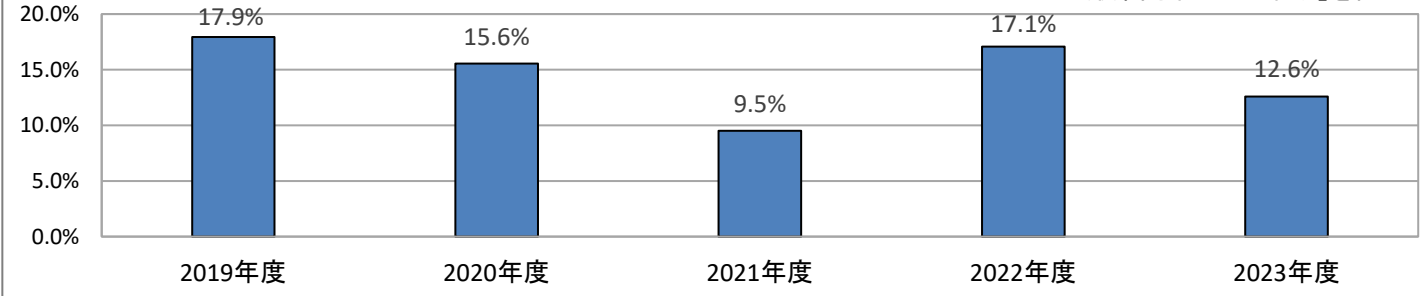
特定保健指導実施率推移



特定保健指導途中修了者数・途中修了者率推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
途中修了者数	7	7	8	88	81
途中修了者率	17.9%	15.6%	9.5%	17.1%	12.6%

特定保健指導途中修了者率推移 ※「資格喪失」「服薬開始による中断」を含む



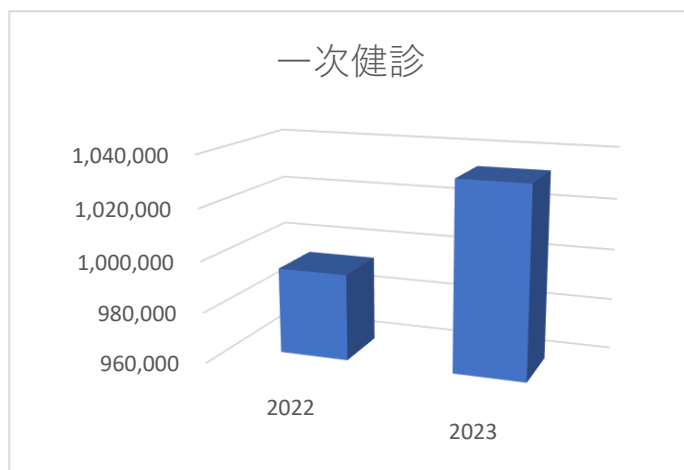
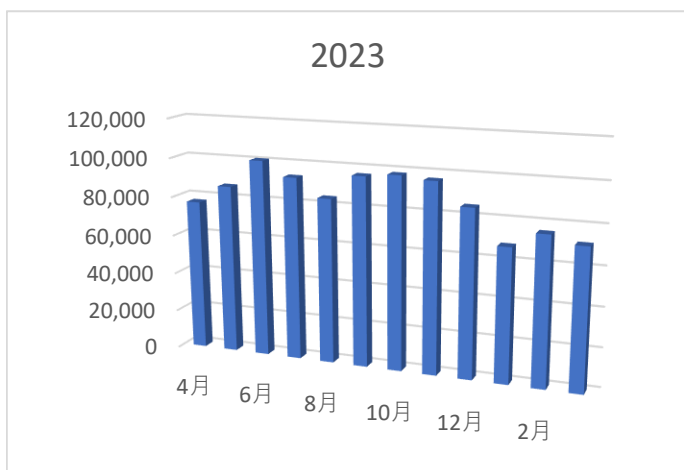
2023年度の特定保健指導実施者数は1447名だった。2022年度の実施者数は2021年度の約4.5倍の1059名であったが、2023年度はさらに388名増加した。実施率については、年々増加傾向である。協会けんぽ実施率をみると、2023年度の当院実施率は44.4%であり、協会けんぽ愛知支部が報告した2023年度の被保険者の実施率23.4%を超えて実施することができている。

途中修了者率については、年度によりばらつきがあるものの、2023年度は12.6%だった。協会けんぽ愛知支部が報告した2023年度の途中修了者率は20.9%であり、そちらを下回る結果となっている。

健診売上額(一次健診)

(千円)

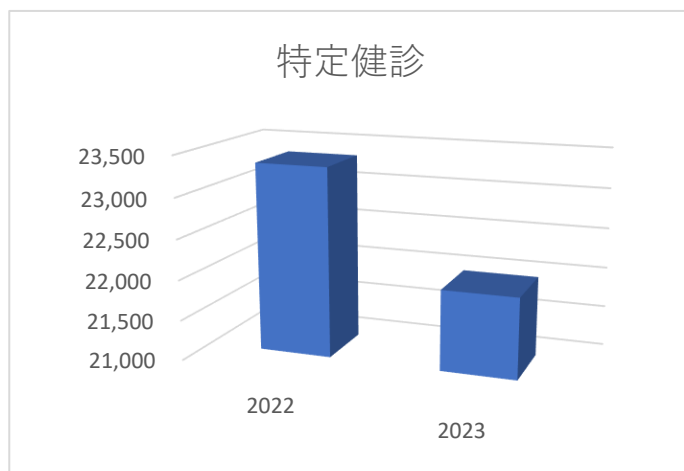
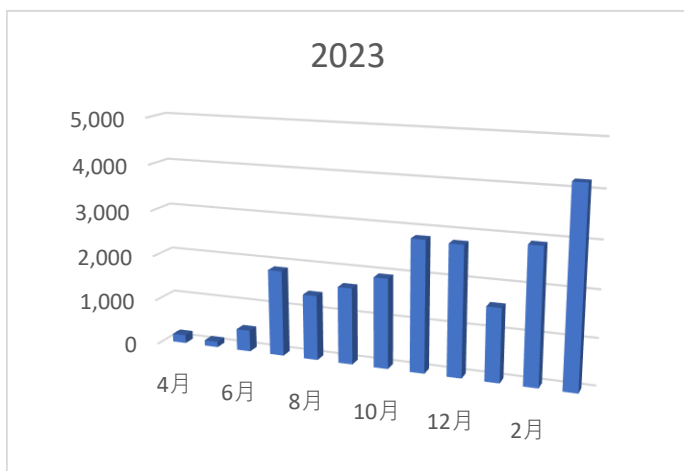
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2022	66,346	72,186	93,627	84,648	83,284	87,506	98,254	97,624	89,358	70,196	75,185	75,584	993,798
2023	77,075	86,322	100,620	93,370	84,107	96,494	98,175	96,651	85,271	67,954	75,574	71,574	1,033,187



健診売上額(特定健診)

(千円)

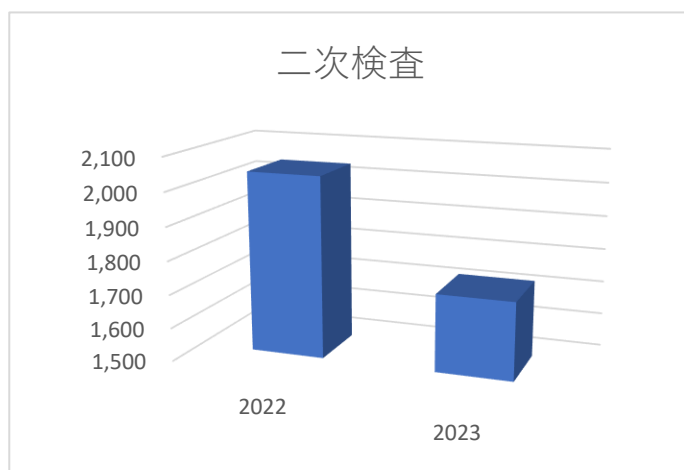
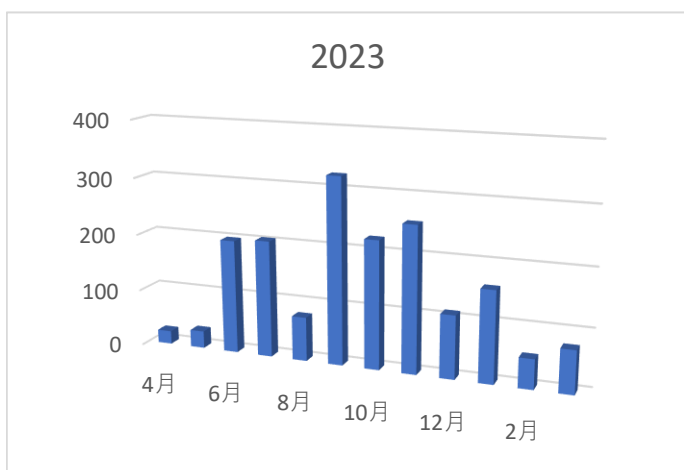
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2022	79	104	1,002	1,476	2,043	1,333	1,916	2,895	2,353	2,144	3,027	4,972	23,344
2023	179	121	468	1,874	1,413	1,662	1,948	2,831	2,798	1,584	2,916	4,199	21,993



健診売上額(二次検査)

(千円)

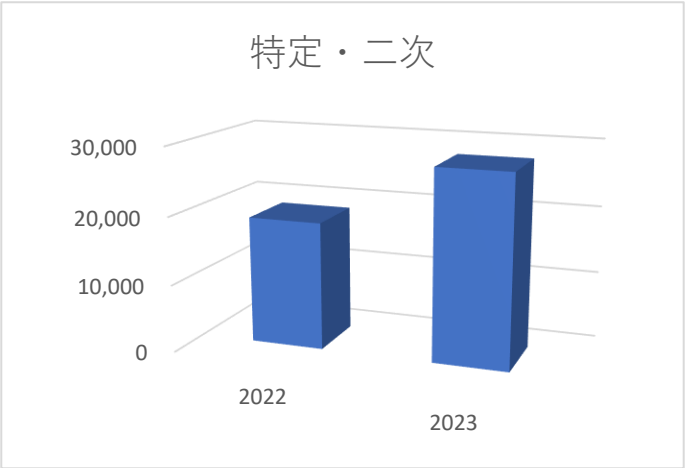
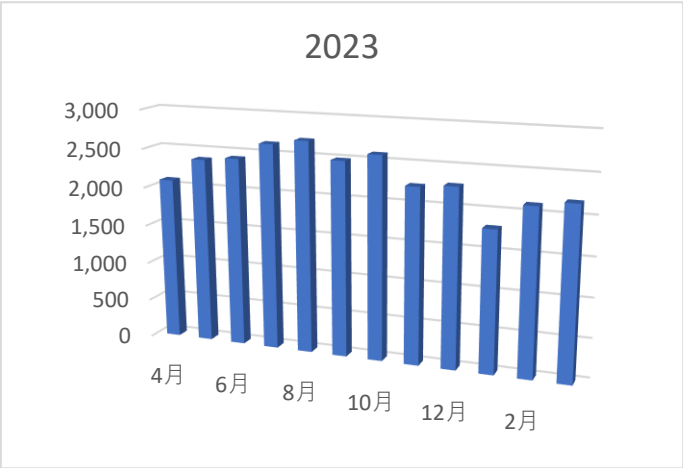
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2022	18	207	243	324	149	88	179	218	242	171	117	85	2,041
2023	23	30	199	204	77	324	223	254	110	159	52	75	1,730



健診売上額(特定保健指導)

(千円)

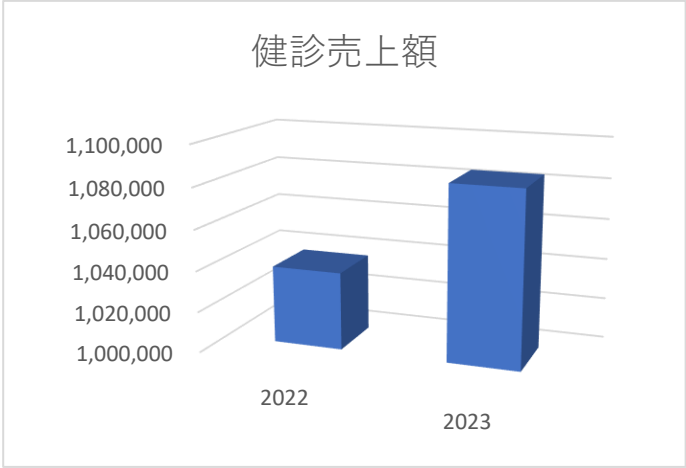
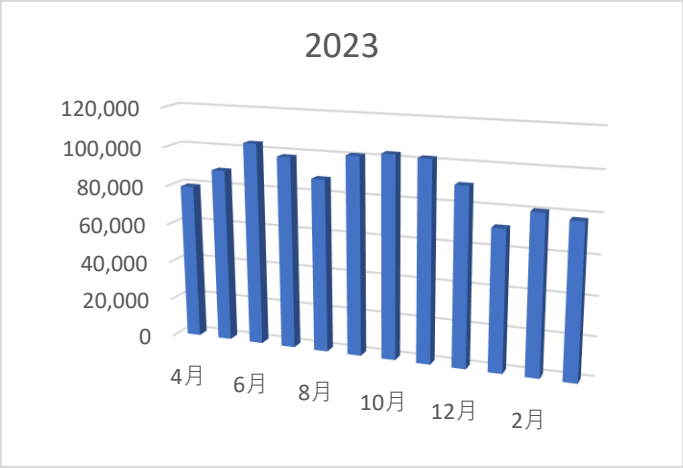
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2022	650	817	1,161	1,036	1,149	2,018	2,417	1,950	1,583	1,748	2,121	2,154	18,804
2023	2,088	2,382	2,425	2,639	2,707	2,492	2,593	2,242	2,279	1,806	2,119	2,185	27,957



健診売上額(合計)

(千円)

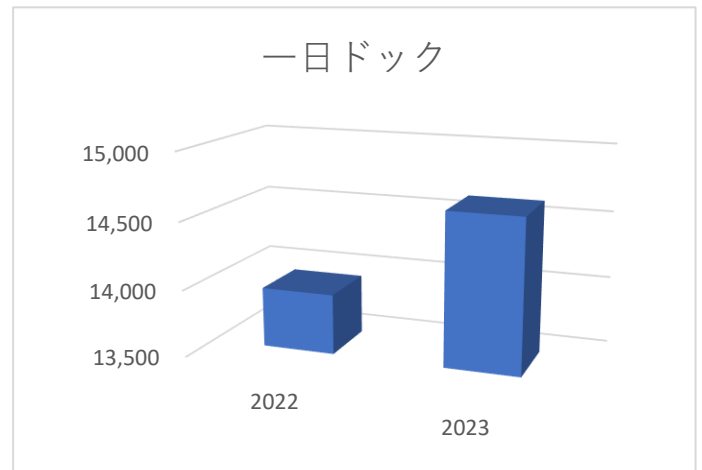
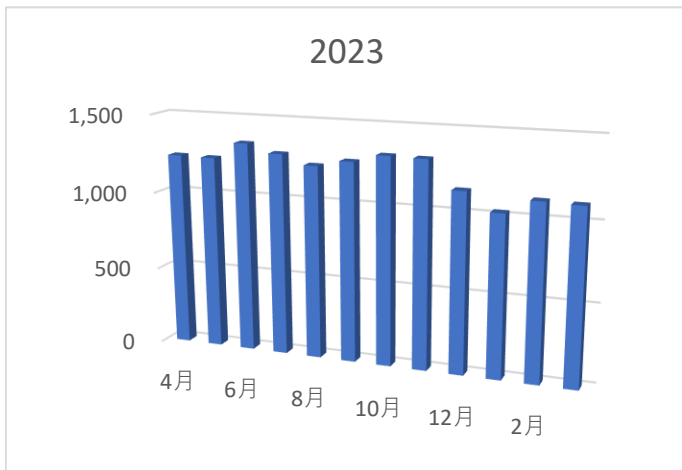
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	67,093	73,316	96,032	87,484	86,624	90,945	102,766	102,687	93,536	74,259	80,451	82,796	1,037,989
2023	79,365	88,854	103,712	98,087	88,304	100,972	102,939	101,978	90,459	71,503	80,661	78,034	1,084,868



一日ドック

(人)

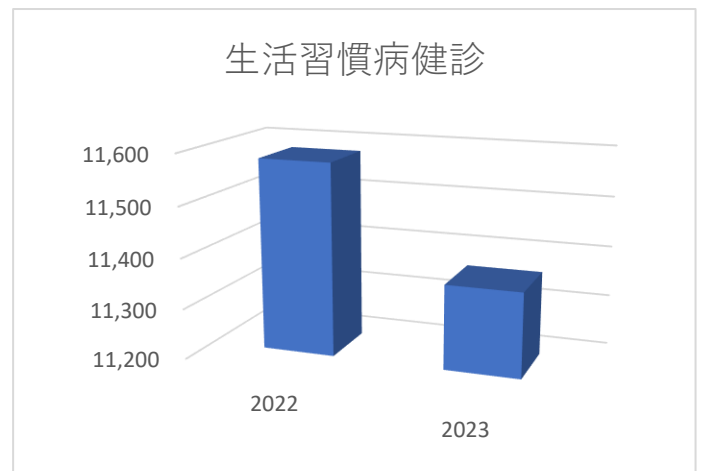
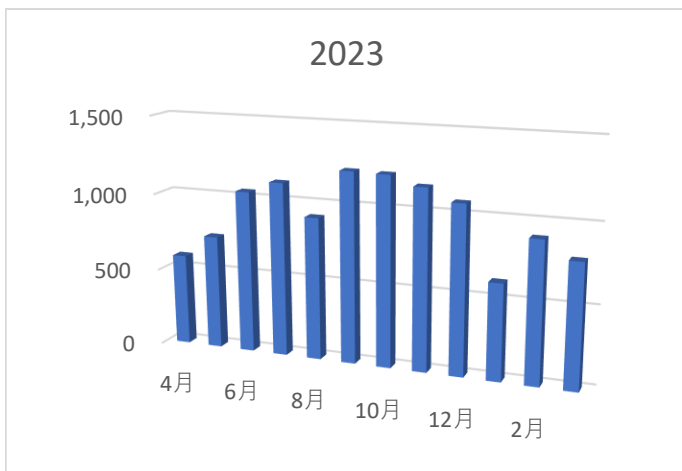
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	1,020	943	1,203	1,124	1,209	1,129	1,332	1,382	1,282	1,049	1,092	1,181	13,946
2023	1,238	1,235	1,341	1,289	1,230	1,270	1,320	1,316	1,142	1,027	1,115	1,108	14,631



生活習慣病健診

(人)

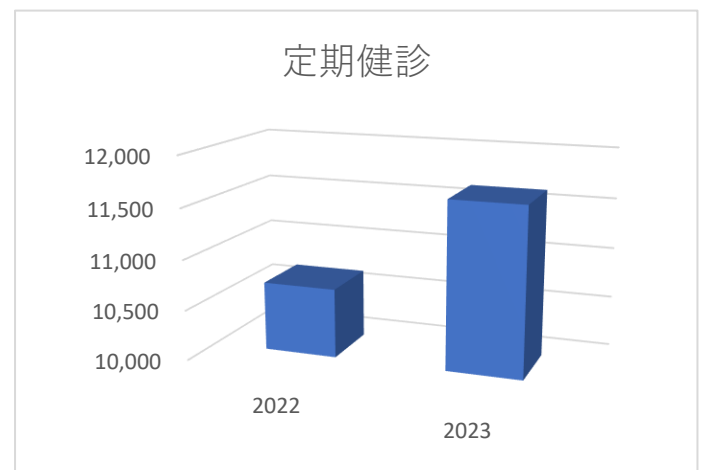
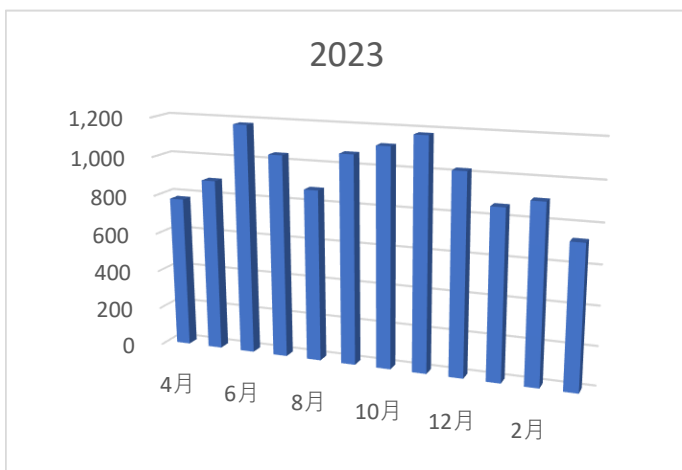
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	655	730	1,133	1,116	868	1,189	1,280	1,198	1,084	684	895	748	11,580
2023	587	732	1,042	1,116	914	1,220	1,215	1,155	1,076	616	902	791	11,366



定期健診

(人)

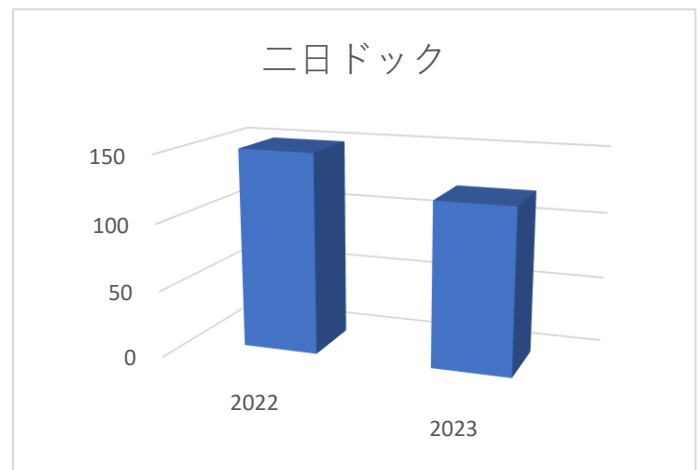
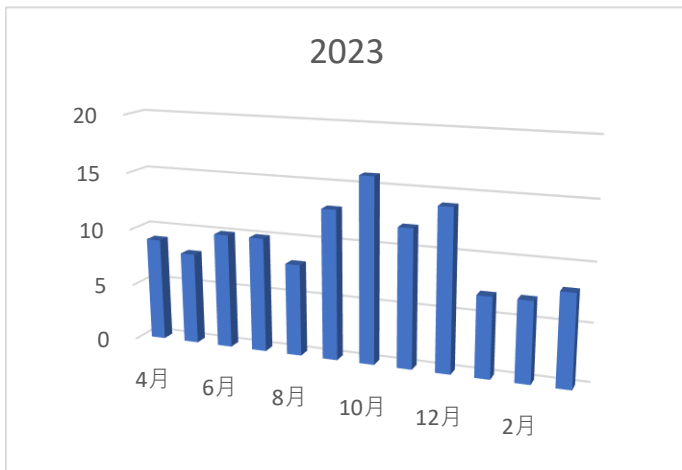
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	579	784	1,005	909	959	1,009	1,006	1,061	956	845	856	716	10,685
2023	778	886	1,180	1,040	878	1,067	1,117	1,179	1,022	865	906	730	11,648



二日ドック

(人)

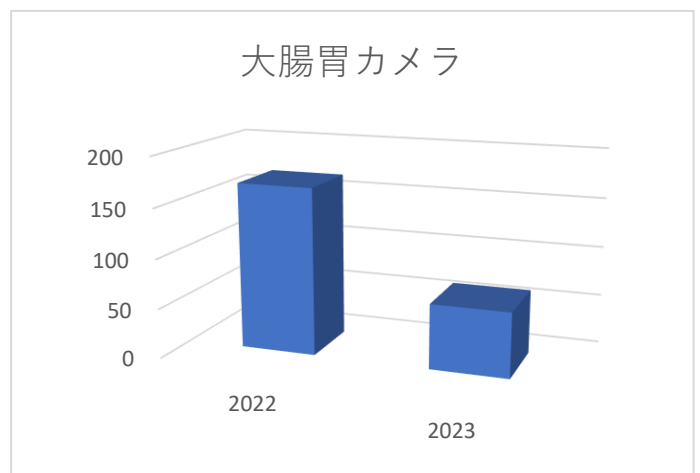
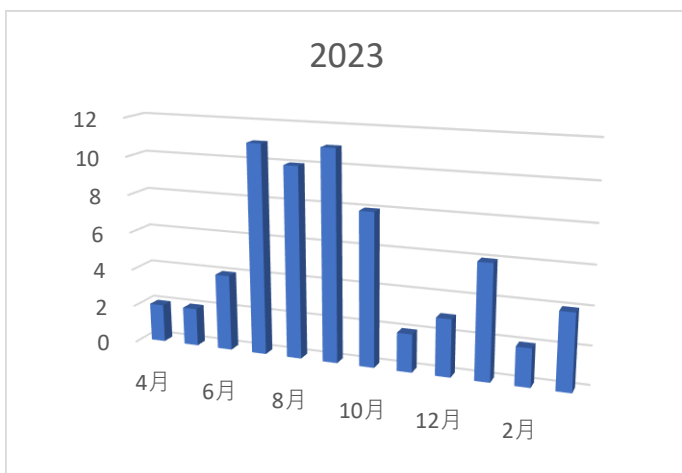
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	7	8	10	10	12	14	15	18	16	14	13	13	150
2023	9	8	10	10	8	13	16	12	14	7	7	8	122



大腸胃カメラ

(人)

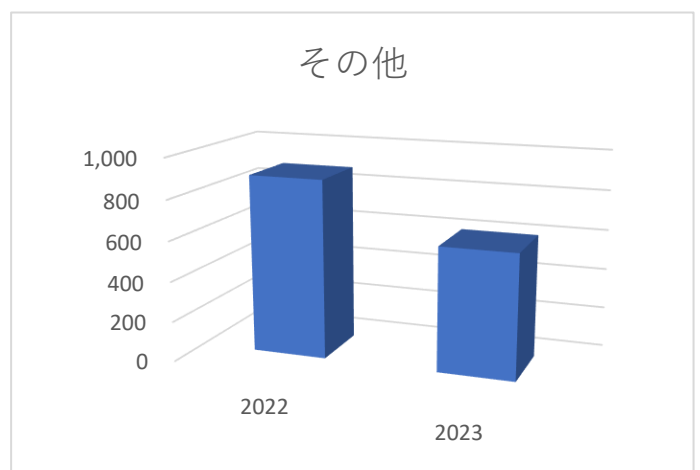
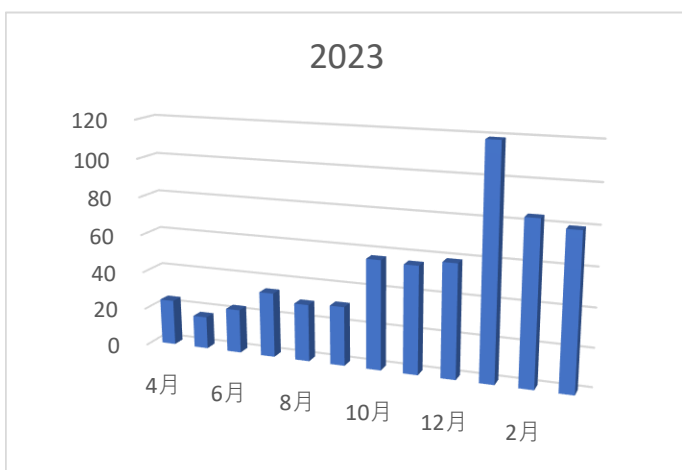
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	17	14	18	14	12	12	13	5	11	15	18	19	168
2023	2	2	4	11	10	11	8	2	3	6	2	4	65



その他

(人)

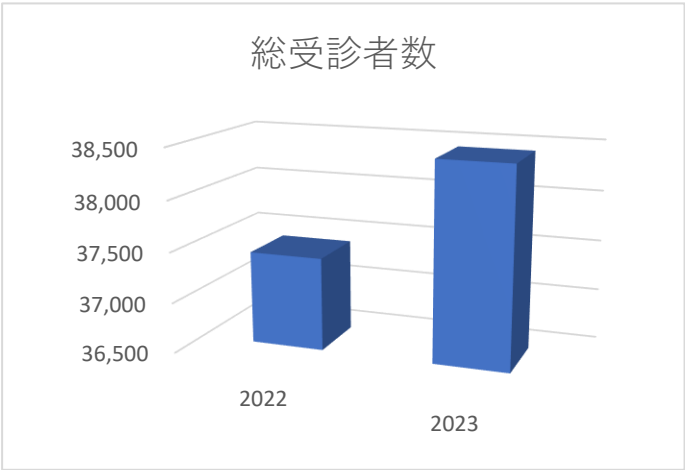
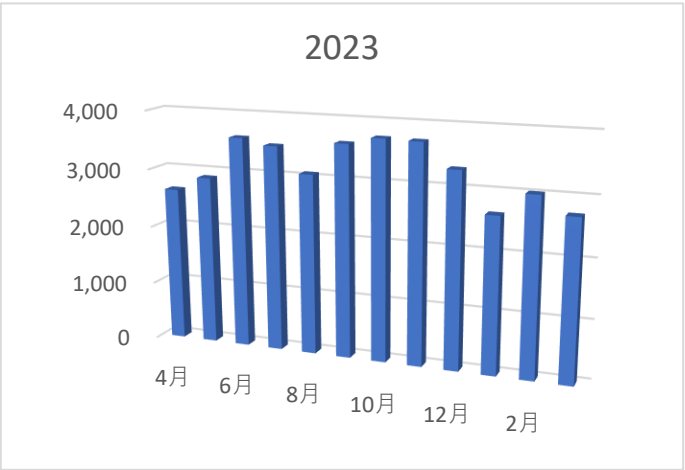
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	79	94	65	117	35	37	41	51	56	107	87	119	888
2023	24	17	23	34	30	31	57	56	59	119	84	80	614



総受診者数

(人)

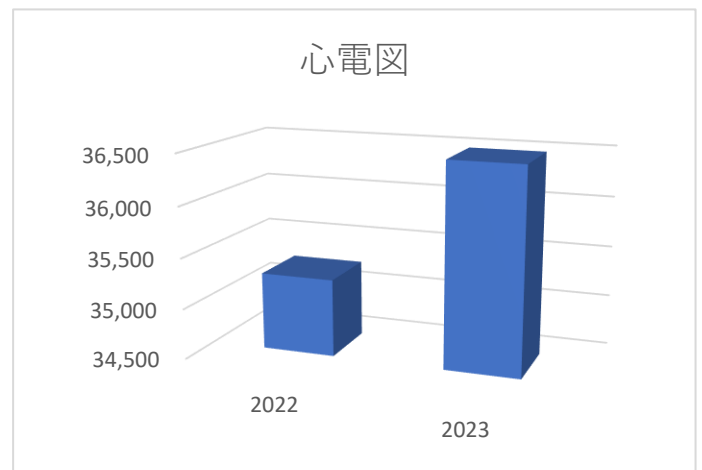
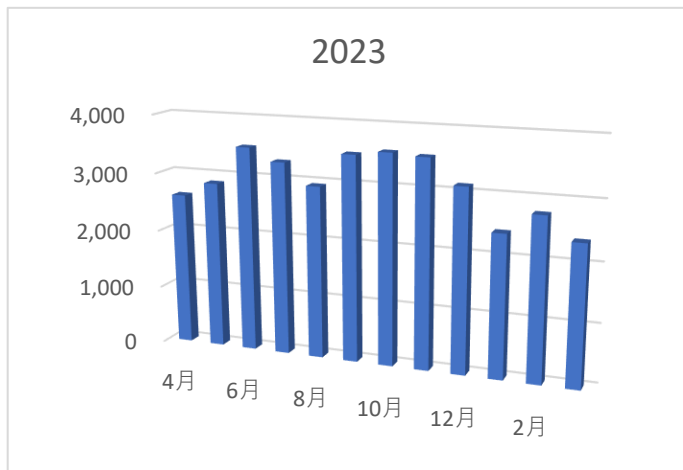
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	2,357	2,573	3,434	3,290	3,095	3,390	3,687	3,715	3,405	2,714	2,961	2,796	37,417
2023	2,638	2,880	3,600	3,500	3,070	3,612	3,733	3,720	3,316	2,640	3,016	2,721	38,446



心電図

(件)

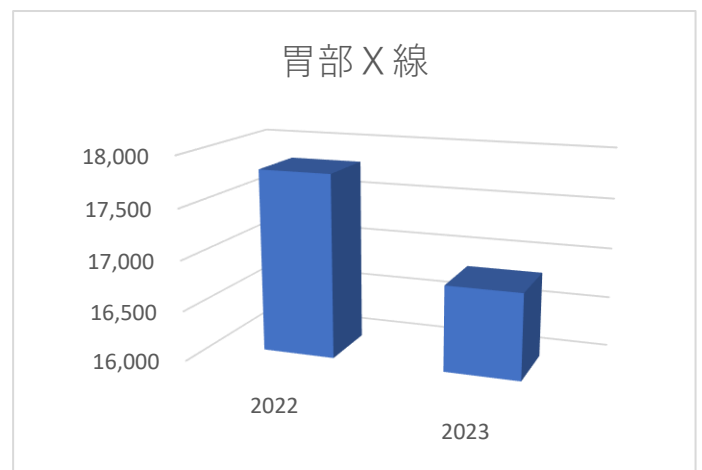
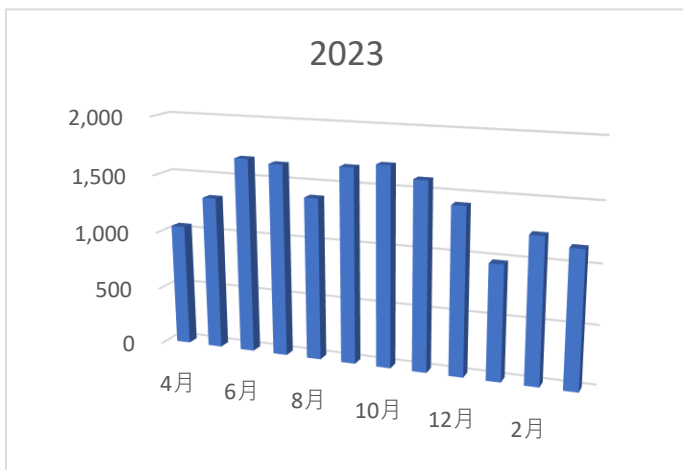
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	2,273	2,460	3,271	3,119	2,980	3,283	3,547	3,513	3,215	2,463	2,737	2,403	35,264
2023	2,610	2,855	3,508	3,298	2,939	3,502	3,573	3,537	3,116	2,418	2,760	2,377	36,493



胃部X線

(件)

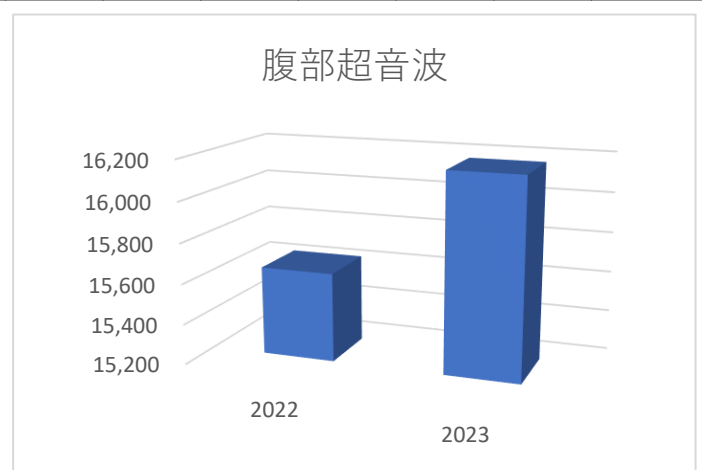
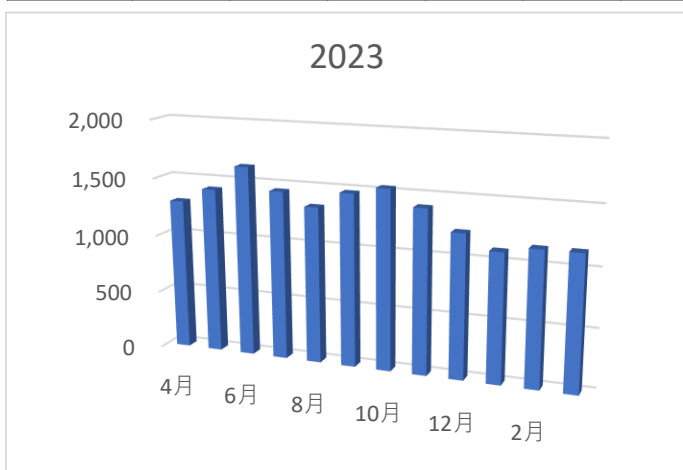
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	1,092	1,246	1,816	1,554	1,388	1,700	1,933	1,837	1,645	1,130	1,289	1,182	17,812
2023	1,048	1,318	1,676	1,649	1,388	1,665	1,702	1,603	1,421	979	1,235	1,159	16,843



腹部超音波

(件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	1,121	1,143	1,506	1,270	1,323	1,322	1,542	1,487	1,379	1,156	1,151	1,240	15,640
2023	1,296	1,419	1,633	1,447	1,337	1,476	1,537	1,403	1,226	1,101	1,150	1,151	16,176

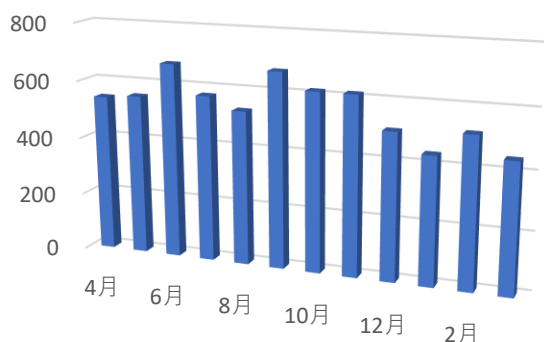


胃部内視鏡

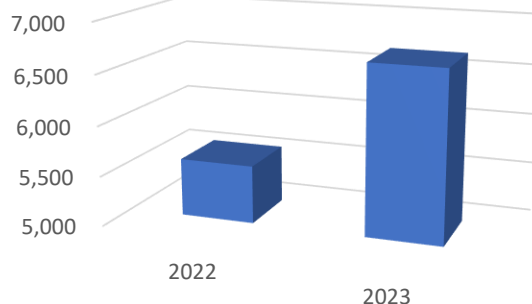
(件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	459	422	512	486	481	449	482	453	461	421	431	520	5,577
2023	542	553	673	573	531	672	615	615	505	439	517	445	6,680

2023



胃部内視鏡

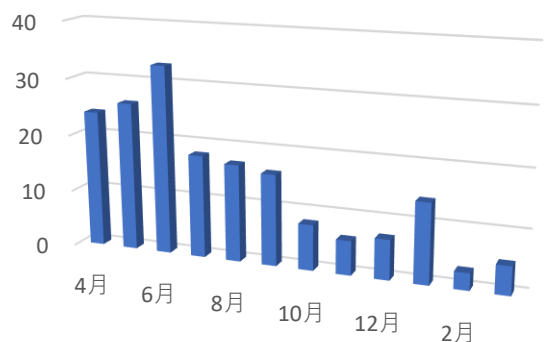


大腸内視鏡

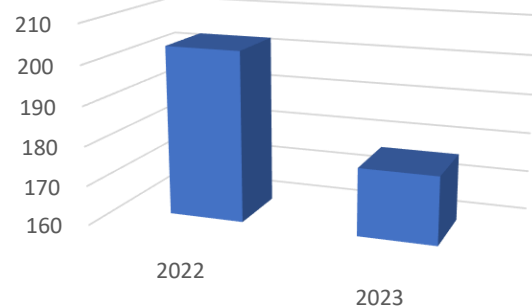
(件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	20	18	21	16	15	17	17	12	12	16	18	21	203
2023	24	26	33	18	17	16	8	6	7	14	3	5	177

2023



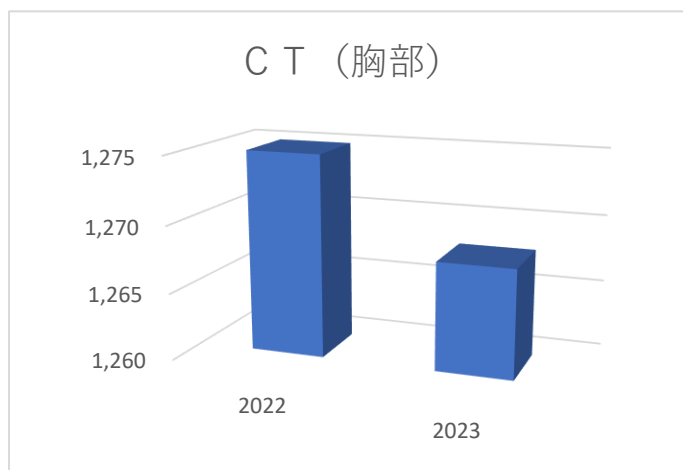
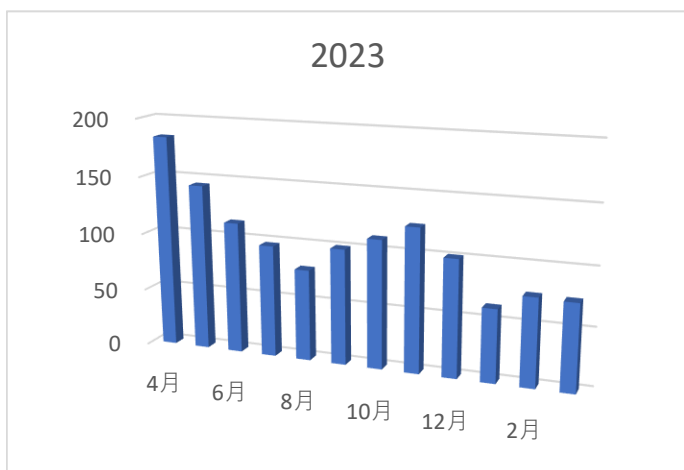
大腸内視鏡



CT(胸部)

(件)

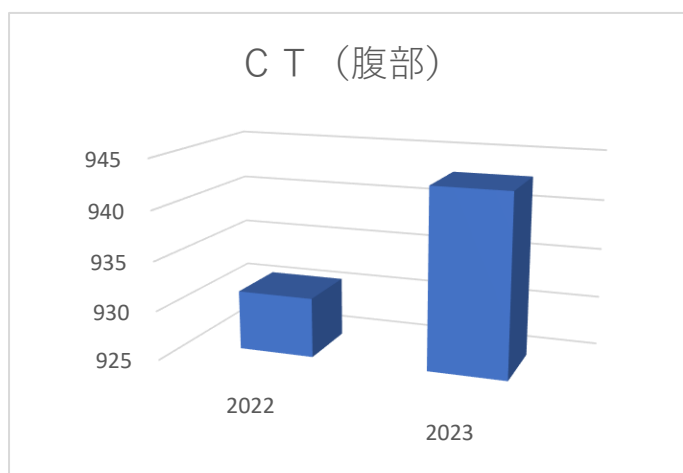
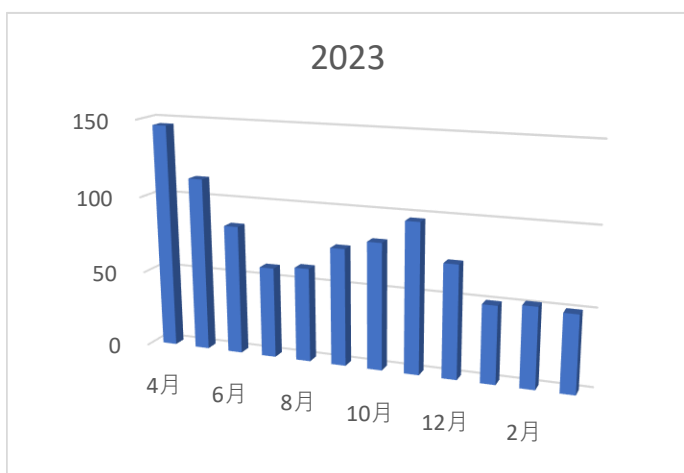
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	109	128	110	103	94	105	116	119	98	83	115	95	1,275
2023	184	144	114	97	79	100	111	124	101	63	76	75	1,268



CT(腹部)

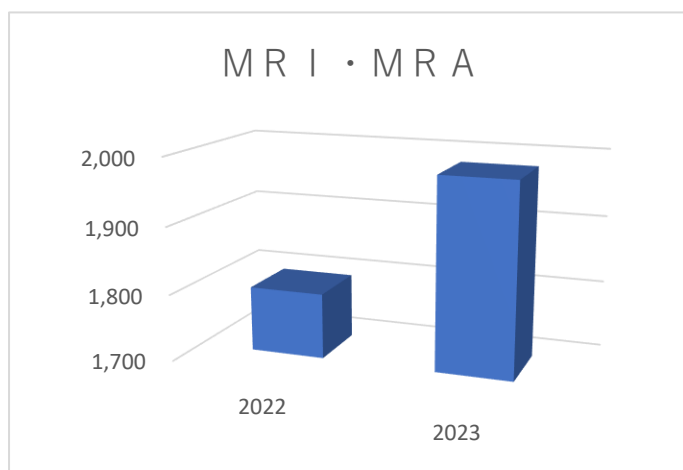
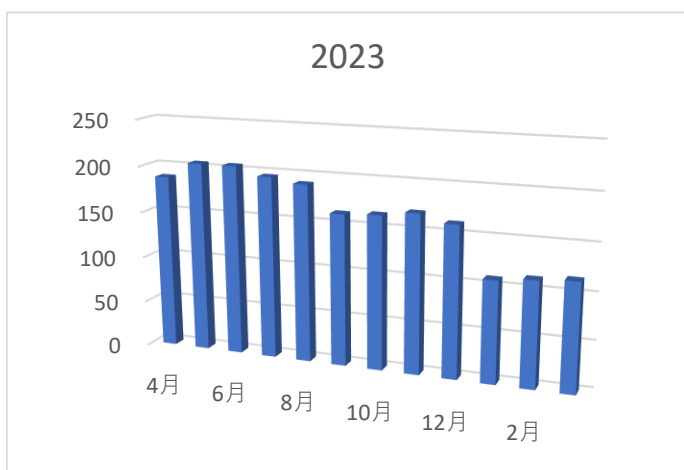
(件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	133	88	66	62	69	73	106	84	59	53	77	61	931
2023	146	113	84	59	61	76	82	97	73	50	52	50	943



MRI・MRA

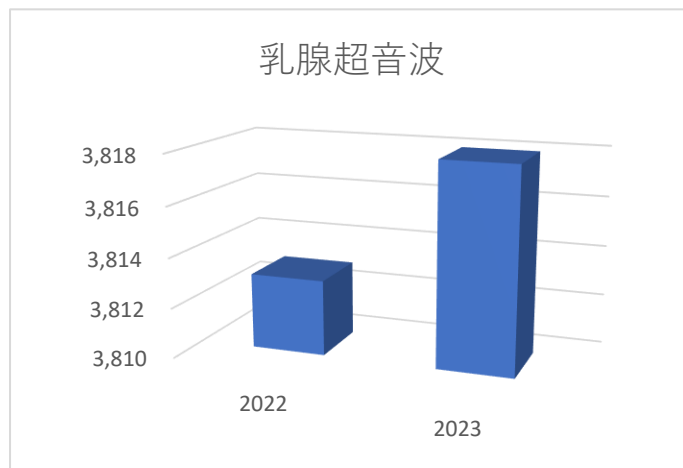
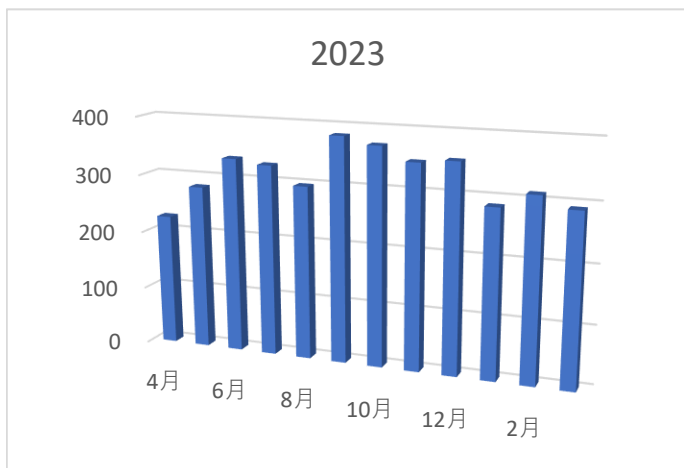
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	119	140	174	153	180	132	179	188	172	105	121	134	1,797
2023	188	205	205	196	191	163	165	170	162	109	113	116	1,983



乳腺超音波

(件)

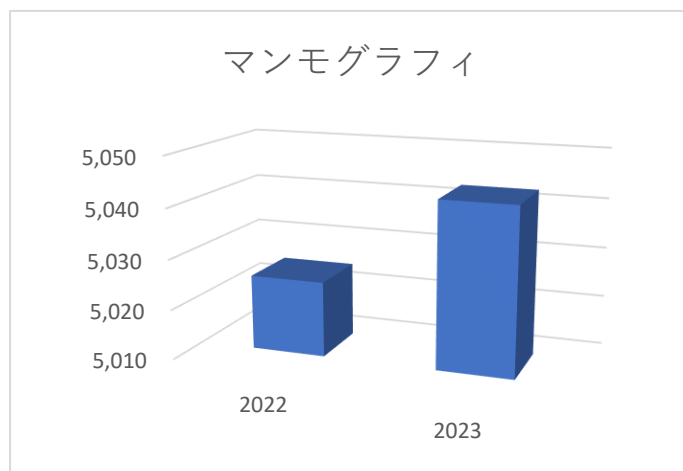
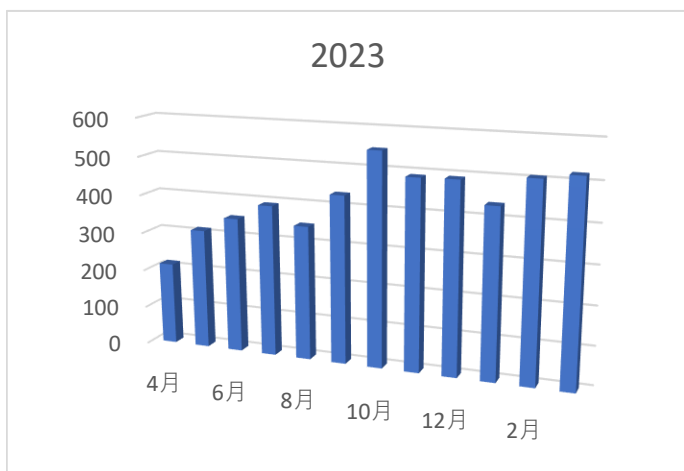
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	214	300	360	310	273	337	374	384	350	303	300	308	3,813
2023	226	282	335	328	297	384	372	349	355	287	311	292	3,818



マンモグラフィ

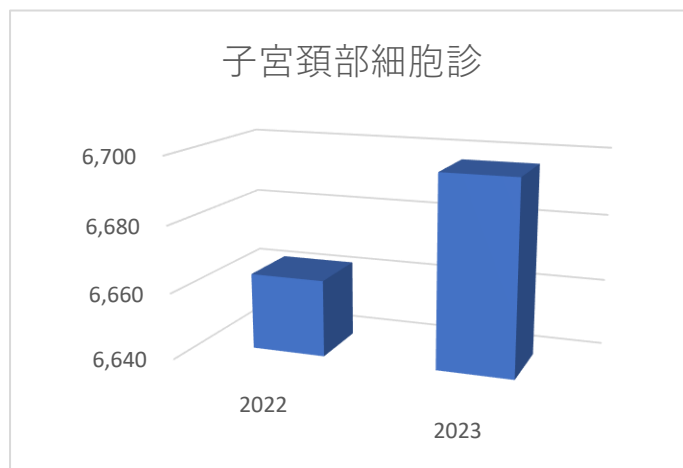
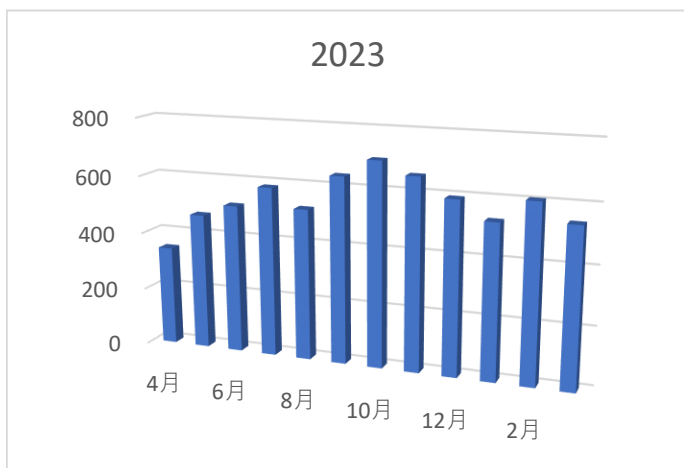
(件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	194	299	392	346	395	446	485	518	524	434	489	503	5,025
2023	214	312	351	392	347	433	549	490	492	436	507	520	5,043



子宮頸部細胞診

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	324	450	566	525	520	598	681	700	643	486	608	562	6,663
2023	343	470	512	584	520	640	700	657	593	530	606	542	6,697



【健康経営への取り組みについて】

1. 健康経営とは

- 1) 従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する経営手法です。
従業員等の健康増進等にかかる支出をコストではなく、「健康投資」としてとらえることが重要です。
- 2) 生産年齢人口の減少と従業員の高齢化、人手不足などの社会的課題を背景に、健康経営の普及が進んできました。生産性向上の観点からも、企業として従業員の健康に「投資」することは今後重要となります。

2. 健康経営の目的

- 1) 企業は従業員の健康確保を法令順守にとどまらず、組織活性化・生産性向上を目的に加え、業績向上、企業価値の向上を目指します。
- 2) 従業員は、自身の健康増進、活力向上を通じて、働きがい・生きがいの醸成につなげていきます。
- 3) 国は、人生100年時代を見据え、健康経営の推進により、健康寿命の延伸と全世代型社会保障の構築を目指します。

3. 当センターの「健康経営」への取り組み

当センターは、地域の皆様の健康増進と維持のために、健診の質向上に取り組み、受診者と職員の安全を確立し安心して受診いただける健診施設を目指すことを理念としていきます。一人ひとりの健康を守り、豊かな家庭づくりに貢献し快適な職場づくり、健康社会の実現に貢献してまいります。

4. 「健康経営」をサポートするためにできること

- 1) 健診データの活用支援(分析)
 - ・健康診断結果報告書の作成
 - ・判定別一覧表の作成
 - ・過去5年間の経過観察以上項目を抽出、社員ごとのお勧めオプション検査をご提案

2) 健康経営優良法人の取得支援

- ・当センターには健康経営エキスパートアドバイザー1名、アドバイザー3名が在席しており、ご要望がございましたら下記ご支援をさせていただきます。
- ・認定制度のご説明(必要要件、スケジュール)
- ・健診関連項目の改善策ご提案
- ・提出資料のご提供

3) 受診率向上への支援

- ・WEBを活用し予約の負担軽減
- ・団体一括予約・枠確保によるご担当者の負担軽減
- ・受診漏れフォローとして未受診者リストのご提供
- ・ホームページ上にメール・FAX送信用健康診断申込書テンプレートのご提供

4) 特定保健指導の実施率向上サポート(企業が健康経営で評価される項目です。)

- ・健診当日に初回面談を実施
- ・特定保健指導未受診者の多い事業所には前年度の特定保健指導該当者数、実施人数、未勧奨理由、不参加理由等の実績資料のご提供を行っています。
- ・2023年特定保健指導契約健康保険組合数21件

5) 健康イベントの開催・参加、社内広報物のご提供

【5月】◆高血圧デイ

○レディースデイ開催のご案内

【6月】○特定保健指導とは

【7月】◆人間ドックの日

【11月】◆医療従事者による健康応援フェスタ

◆愛弁協秋祭り

◆世界糖尿病デイ

【12月】○インフルエンザ予防接種のご案内

【8月,12月,1月,2月,3月】◆レディースデイ

◆:イベント ○:広報物

6) ご担当者のお困りごとを定期的にヒアリング

- ・ご訪問の際に課題やご相談をお聞きた上で、当センターがご提供できるサービスを組み合わせ、ご提案をさせていただきます。

○健診を受けるだけでは健康経営にはなりません。当センターは健診データの活用、受診率改善など健診後のフォローを通して健康課題をご一緒に解決いたします。

【当センターの経営戦略】

当センターは日本人間ドック・予防医療学会の健診施設機能評価、日本総合健診医学会の優良総合健診施設、日本脳ドック学会認定施設の認定を受けております。健康経営アドバイザーも3名在籍して各事業所の健康経営のお手伝いができるように努力しております。

理念として「私たちは、地域の皆様の健康増進と維持のために、健診の質向上に取り組み受診者と職員の安全を確立し、安心して受診いただける健診施設を目指します。」を掲げ、がん検診と生活習慣病健診、保健指導、フォローアップに力を入れて運営しております。

また高齢化社会に対応するために退職された方を対象にしたお値打ちなシルバードックを導入し、女性のための女性専用のレディースドックを行って社会貢献にも尽力しております。2026年度からは新たにスマホで健診結果を見られるようにアプリを導入し、受診者の利便性を高めます。

【学術的展望】

2024年度に第65回日本人間ドック・予防医療学会学術大会で「特定保健指導実施率向上への取り組み」を発表しました。2025年度には第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会で「当院でマイシグナルを導入した経緯とリアルワールドデータ」を発表し、学術的活動にも力を入れております。

また日本人間ドック・予防医療学会、日本人間ドック健診協会にご協力いただきサイバーセキュリティ研修を行い、今後は接遇研修も予定しております。

【今後の展望】

これらの取り組みにより、地域の中核健診センターとしての役割を確立し、職員の教育と研修を積極的に行い、自己研鑽に努め、健全経営に徹し、永続的に発展する健診施設を目指します。